

ODU

大阪歯科大学広報

NEWS

No. 167
March 2013

OSAKA
DENTAL
UNIVERSITY



--- Topics ---

- 創立100周年記念館 竣工式
- 『大阪歯科大学百年史』並びに
『大阪歯科大学大学院50年史』の刊行
- 平成24年度 卒業式によせて



大阪歯科大学創立100周年記念館

<< 目 次 >>

- 創立 100 周年記念館竣工式 ----- 3
- 『大阪歯科大学百年史』並びに
『大阪歯科大学大学院 50 年史』の刊行 ---- 4
- 平成 24 年度 卒業式 ----- 4
- 学長告辞 学 長 川添 堯彬 ----- 4
- 理事長式辞 理事長 川添 堯彬 ----- 5
- 祝 辞 同窓会会長 三谷 卓 ----- 6
- 学位・博士（歯学）授与報告 ----- 9
- 平成 25 年度 一般入試合格発表 ----- 10
- 平成 24 年度 専門学校卒業式 ----- 10
- 定年退職 ----- 10
- 定年退職の御挨拶 篠原 光子 -- 11
- 懐かしの牧野と天満橋学舎 馬場 忠彦 -- 11
- 定年退職を迎えて 三木 慶一 -- 12
- 定年退職挨拶 西嶋 耕治 -- 13
- 物理学教室教授就任 ----- 13
- 教授就任挨拶 辻林 徹 ---- 14
- 第 22 回 日本歯科医学会総会開催 ----- 15
- Osaka Dental University/ Columbia
University College of Dental Medicine
Continuing Education Program ----- 16
- 「歯学教育認証制度等の実施に関する
調査研究」始まる ----- 16
- 枚方市との連携協定等締結 ----- 17
- 平成 24 年度 父兄会・共済会総会開催 --- 17
- 平成 24 年度 第 6 学年父兄会
並びに地方父兄会開催 ----- 17

- 平成 24 年度 オープンキャンパス実施 --- 18
- 平成 24 年度 学生短期海外研修派遣 ----- 18
- 平成 24 年度 海外協定校の学生受入れ --- 18
- 第 44 回 全日本歯科学生総合体育大会 --- 18
- 平成 24 年 秋の褒章・叙勲受章者 ----- 19
- 第 20 回 大阪歯科大学公開講座 ----- 19
- ひらかた市民大学 2012 開催 ----- 20
- 第 44 回 大学祭 ----- 20
- 平成 24 年度 自衛消防訓練 ----- 20
- 平成 24 年度 実験動物慰霊祭 ----- 20
- 平成 24 年度 教職員忘年慰労会 ----- 21
- 平成 25 年 新年互礼会 ----- 21
- 平成 24 年度 解剖体遺骨返還式 ----- 30
- 平成 24 年度 科学研究費補助金交付 ----- 31
- 第 106 回 歯科医師国家試験結果 ----- 34
- 平成 25 年度 事業計画 ----- 34
- 薬剤師の野木さん等 (社)大阪府病院協会
第 37 回病院職員永年勤続表彰 ----- 37
- 沖縄県歯科巡回診療に従事して
奥田 恵司 ----- 37
- 世界選手権 (トライアスロン) に参加して
三木 慶一 ----- 38
- 寄 贈 ----- 39
- 人 事 ----- 40
- あとがき ----- 41



創立 100 周年記念館竣工式

大阪歯科大学創立 100 周年記念事業のフィナーレを飾る記念館の新築工事は、去る平成 25 年 3 月 13 日、約 11 カ月の工期を経て無事完成し、同月 21 日（木）午前 10 時から、竣工式が記念館正面玄関において執り行われました。

式典には、法人役員をはじめ建設委員会委員、名誉教授、教授等本学関係者及び設計監理、施工者の㈱日建設計、西松建設㈱の関係各位合わせて 70 余名が出席し、生國魂神社による神事の中で、記念館のとこしえの堅牢と本学の弥栄を祈る祝詞が奏上されました。



施主代表の川添堯彬理事長・学長は、改めてこのたびの建設目的を「天満橋学舎における教育施設の充実を図り、本学が掲げる「五つの力の目標」のうちの最重要課題である学力と教育力のより一層の向上に資すること」であると述べて、「記念館の完成により、卒業資格試験や国家試験を控えた 5・6 年生の学修を附属病院と一体で強力にサポートする環境が整備された」と挨拶し、「4 月から新たな学び舎で学生たちが更なる意欲を持って勉学に励む」ことに期待を寄せました。

式典終了後、施設見学会が開かれ、真新しい館内を各出席者が興味深く見物して回る姿が印象的でした。

見学会に引き続き催された直会では、理事長・学長から工事関係者に感謝状が贈られ、日建設計の林直樹副社長は「記念館の第一の特徴はファサードで、大学のシンボルマークを象った希少なハニカムタイルが 3,748 枚（皆良い歯）施されています」との設計秘話を披露くださいました。

また、本学現場責任者の下村銭三郎常務理事は、「予想外の地中障害物撤去があり、西松建設関係者の尽力

で竣工を間に合わせる事ができた」旨や、「建物のガラス面にもシンボルマークをデザインするなど配慮いただいた」点を紹介し、関係各位に深甚の謝意を示されました。

100周年記念館は鉄骨造4階建て、延べ床面積2,516.4㎡で、収容人数 250 名の大講義室の他、中講義室、小講義室 2 室、ゼミ室 4 室、談話スペース等を備えています。

最後に、記念館建設の趣旨に賛同しご寄附くださいました皆様並びにこの建設に関わりご支援、ご協力いただきました全ての方々はこの紙面をお借りしまして厚く御礼申し上げます。



4 階 大講義室



3 階 中講義室



2 階 小講義室

『大阪歯科大学百年史』並びに『大阪歯科大学大学院 50 年史』の刊行



大阪歯科大学創立 100 周年記念事業の集大成ともいえる、『大阪歯科大学百年史』並びに『大阪歯科大学大学院 50 年史』が 2012 年 12 月に刊行されました。

『大阪歯科大学百年史』は 700 ページ余りの立派な装丁の書物となり、第 1 編では大学の創立から 100 周年にあたる平成 23 (2011) 年までの沿革が、第 2~5 編は大学院、専門学校や附属病院などについて、第 6 編では各教室・講座等の沿革と活動について詳しく記されており、懐かしい先生方の写真も随所に収録されています。

『大阪歯科大学大学院 50 年史』では大学院の沿革(年譜)、大学院講義の概要や大学院生の研究活動などが記されており、巻末には詳しい関連データが収録されています。

平成 24 年度 卒業式

平成 25 年 3 月 8 日(金) 午前 10 時から楠葉学舎講堂において、平成 24 年度大阪歯科大学卒業式並びに大学院学位認証式が執り行われました。

川添堯彬理事長・学長から第 61 回大学卒業生 105 名一人一人に卒業証書・学位記が授与され、第 49 回大学院修了者 24 名にはそれぞれの指導教授から博士(歯学)の学位記が授与された。

諏訪文彦副学長の開式の辞、国歌斉唱、卒業証書・

学位記の授与のあと、川添堯彬理事長・学長が学長として告辞、また理事長として式辞を述べた。来賓祝辞では三谷卓同窓会会長が卒業のお祝いを述べた。最後に卒業生を代表し井角佐利さんから記念品が寄贈された。



学長告辞

学長 川添 堯彬



東大寺二月堂のお水取りの行事は、今月初めから先日の 3 月 5 日の啓蟄を過ぎてもなお続いておまして、来週の 12 日の火曜日にいよいよ満行日を迎えます。周辺の梅林も今満開で、春の到来がすぐそこに感じられるこの頃でございます。春は物事の始まりであり、夢や希望の実現を感じさせるものでもあります。

本日、まさにこの春を思わせる暖かさのよき日に、第 61 回大阪歯科大学卒業式を迎えられます 105 名の新歯学士諸君並びに第 49 回大学院学位認証式を迎えられる 24 名の新博士の皆さん、本日は誠にめでとございます。同時に、本席にご臨席いただきました保護者・ご家族の皆様におかれましても、ひとしおの感慨に胸を膨らませておられることと拝察いたします。

さて、新歯学士の皆さんに申したいと思います。皆さんは間もなく国家試験に見事に合格されて歯科医師になられるわけでありますが、これからさらに国で決められた1年間の臨床研修で研さんする義務があります。その後は社会人歯科医師として、各分野に分かれて活躍していただくこととなります。それぞれに使命感ややりがいを見つけてくれるものと思います。

皆さんはこれから社会に出られて、第1には歯科医師、DDSとしての必要な3要素、すなわち Science, Art & Heart、すなわち歯科医療技術を磨くとともに、Heart の提供を十分に発揮していただきたいとの思いであります。この Heart は思いやりの心であります。歯科医師には特にこの点が重要だと思われまます。奉仕の精神や博愛の心にも通じるものがあります。

第2の目標は、できるだけ交友もこれからは外国に目を向けてほしいことでもあります。それは自己啓発にもなりますし、また視野の拡大にも有益であります。もしかしたら将来の私たちの活躍の場もグローバル世界に見い出せるかもしれません。

そして第3の目標は、もっともっと患者さんに喜んでもらえるような歯科医療を模索、探索し、実行してほしいのであります。できるだけ多くの人々から「ありがとう」という言葉をたくさん言ってもらえる、そんな歯科医師になってほしいと思います。

次に、めでたく大学院を修了された新博士（歯学）の皆さんへ申したいと思います。歯学部を卒業後、さらに上級のコースを進まれ、勉学意欲、研究意欲に燃えて、ここまでの苦労や努力に耐えてこられて、このたび見事に博士の学位を授与されました。このご苦労の成果を、皆さんのこれからの各自の職業人生や、あるいは研究人生においてさらに磨いていただき、各分野の歯科界のトップランナーになっていただきたく、存分に活躍していただくことを祈念いたします。

そしてさらに期待したいことは、皆さん方は恵まれて、また幾多の努力を経てここまで進んでこられた、まさに宝となるエリート人材でございます。できましたらお一人でも多くの方が大学に残っていただき、大阪歯科大学の教員人材のかなめの柱になっていただきたい思いでございます。そしてそれによって、大学の力を一段と高めていただきたいと念願いたしております。

以上、新歯学士と新博士（歯学）の皆さんへの学長告辞といたします。



理事長式辞
理事長 川添 堯彬



このよき日に第61回大阪歯科大卒業式を迎えられます、105名の学部学生の皆さん、並びに第49回大学院学位認証式を迎えられました24名の皆さん、本日は誠にめでたうございました。同時に、本席にご臨席賜りましたご家族・保護者の皆様方におかれましても、さぞや安堵の思いでおられることと拝察いたします。

さて、まず学部卒業生の皆さんに申したいと思いません。皆さんは間もなく国家試験に合格されて歯科医師となられるわけでありますが、さらに1年間の臨床研修を積まなければ一人前にはなれません。私はここで、卒業生の皆さんに社会へ出てからの、あるいは社会へ入ってからと言ったほうが適当かもしれませんが、これからの皆さん方が目標とする歯科医師像について、こんな歯科医師になってほしいという願いを申したいと思いません。それは具体的には、3つの歯科医師像になります。

1つ目は、患者さんに感動してもらえる人で、それを喜びと思える歯科医師であります。患者さんは一般社会人であり、一般国民でもあります。その患者さんから感動や感謝の気持ちが伝えられる、またそれを喜びとできる歯科医師であります。患者さんは歯科医療において、安全・安心の治療を何よりも望んでいるからであります。

2つ目は、患者さんから、一旦終わりましたまた再びこの先生にかかりたい、診てもらいたいと思ってもらえるような歯科医師になってほしいことでもあります。これも信頼確保であり、社会貢献につながるものと思

われます。

そして3つ目は、この職業として、歯科医師になって本当によかったと思える歯科医師であります。これも本学の建学の精神にかなったことであり、ご父兄・保護者にとって、また本学の教員としても最も喜びとするうれしいことであり、切なる願いであります。

どうかこの3つをこれからの目標として、Science, Art & Heart を磨いていただきたいと思います。

一方、大学院博士課程を修了されました皆さん方は、それぞれが専攻講座指導教授のもとでの研さんに努められ、専門分野での知識をより深められたことと思います。しかし単に学位を取得したことに満足せず、得られた知識と専門分野での研究成果をこれまでの歯科医療分野に反映させていただきたく切望してやみません。そのことが、この4年間お世話になりました大学や情熱あふれる研究指導をいただいた指導教授、並びに貴重な提言をいただいたインストラクターをはじめ、先輩教員の方々、その協力を惜しまなかった講座員への恩返しにもつながると思うわけでありです。今年度の大学院修了者から、さらに大学や病院に残られる場合には、各部署での重要な職責を担うことになると思います。まさに社会貢献でございます。

さらに私は、理事長として、新学士並びに新博士の両方の方々に申し上げたい。皆さん方は、100周年を迎えた本学の卒業生であることを、一同めいめいの肝に銘じて刻んでほしいのであります。100年の長きにわたって社会に奉仕し、貢献したのだという先輩たちが築かれた誇りを、あなた方若い者は持ってほしいと思うのであります。そうすれば一同の胸中に、未来へ向けての新たな誓いが生まれるものと確信します。

既に過ぎました2011年11月11日には、盛大に100周年記念式典が挙行されました。そしてこの式典を含む7つの記念行事を、本学は100周年記念館が間もなくでき上がるのを含めて、すべて完了いたします。これから、またこのときに、100年に一度の非常に貴重なこのときにこそ、君たちが卒業し、私たち教職員が生きていられたという僥倖を思わずにはられません。皆さん方もこぞって未来に向けての新たなる誓いを今日の日、このときに肝に銘じて胸に刻んでいただきたいと切願、切望いたします。

以上をお願いを申し上げて、理事長式辞といたします。

祝 辞

同窓会会長 三谷 卓



同窓会を代表いたしまして、一言、お祝いの言葉を申し上げます。

ただいま諸君は学長から卒業証書を授与され、めでたく歯学士となられました。諸君は春秋に富む青年期の貴重な6年の歳月を費やして、歯科医としての天職を得るために、今日まで研さんしてこられました。見事にその成果を今日手にされたわけでありです。同じ体験をしてきた全国の先輩同窓会員から、皆さんのこの慶祝に満腔の拍手を送り、衷心よりお祝いいいたします。誠におめでとうございます。ご両親・ご父兄におかれましては、この日を一日千秋の思いで迎えられたことでしょう。今日までのご支援、今さらながら感慨深いものがありそうですが、そのご労苦に深甚なる敬意を表すところでございます。

この数年、国の内外にありましては、大きな災害や経済危機がありました。本学にありましては、災害に見舞われることなく無事に諸君を送り出せることは大きな喜びであります。教職員の皆さんのご苦労に心から感謝を申し上げたいと思います。

さて、諸君にとってはこの時期、この喜びの反面、先ほどもございましたが、国の定める関門が立ちかかっています。全員がその栄冠を勝ち取ってくれることを祈っております。大学における6年間は専門的知識と技術の修得でありましたが、あわせて心身の育成や文化的な活動を体験することにより、医療人として、また社会人としての素養と体力を獲得する時間でありました。これからの数年間は、自分の判断で研修し、

研さんしなければなりません。魅力のある自分づくりのために何をなすべきか、目標を立てて夢に向かって進んでください。続ける意志が結果をつくります。

また、一方では、人生としてのさまざまな体験、選択に対面することになります。いよいよ人生の出発点に立つことです。焦らずに着実に進んでください。

大学は一昨年、創立 100 周年を祝いました。同窓会としてもいろいろな記念の行事をいたしました。最も大きな成果は、卒業生として大学への思いを新たにしたことであります。校歌の「清澄雲に映る」、これはこれからも諸君も何回も歌うでしょうが、我々の青春の歌であります。大歯に学んだ者への生涯のメッセージであります。今、我々は 100 年を超えて、新しい世代に向かって、一步踏み出しました。それは大学として誇れる文化をつくるためのステージであります。医療人としての温かさ、人徳、学長もおっしゃいましたが医療愛、そうしたものの、精神性を持って歯科医療に貢献できればと思っております。同窓会の各地域での活躍も、大学の文化に貢献するものであります。諸君の将来の活躍を期待しております。諸君は母校のかけ

がえのない胎児の一員であります。諸君は晴れて大歯 61 回生と呼ばれます。また、クラスの名前がつくことでしょう。と同時に、大歯出身者としての誇りと責任を負うこととなります。互いの友情と連帯を持って、自分たちのクラスを育ててください。

大学院歯学博士認証を受けられた皆さん、すばらしい研究の成果を得られて誠にありがとうございます。それはあるとき厳しい試練であったでしょうが、同時にみずからの成長を得るものであります。近年、分子生物学の進歩を軸といたしまして、動的平衡としての生命論、あるいは組織再生の研究分野が注目されておりますが、歯科医学といたしましてもさらなる研究の進化が期待されております。皆さんの継続したリサーチが、本学の目指す「蓁蓁たる大樹」に貢献するものであります。指導者として頑張っていたいだきたいと思ひます。

最後になりましたが、皆さんがこれからも大きく発展、活躍されること、そして幸運と健康に支えられますことを心から願って、同窓会としての祝辞といたします。おめでとうございます。





学位・博士（歯学）授与報告

大郷英里奈 甲第 692 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Increased expression of interleukin-18 in the trigeminal spinal subnucleus caudalis after inferior alveolar nerve injury in the rat (下歯槽神経損傷後の三叉神経脊髄路核における IL-18 の発現増加)

岡井 有子 甲第 693 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Study on Apoptosis in Human Deciduous Tooth Pulp Cells (乳歯歯髄のアポトーシスに関する研究)

河合 咲希 甲第 694 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Effect of 6-bromoindirubin-3'-oxime on human deciduous tooth dental pulp cells (乳歯歯髄由来細胞における 6-bromoindirubin-3'-oxime の影響)

有馬 良幸 甲第 695 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Evaluation of bone regeneration by porous alpha-tricalcium phosphate/atelocollagen sponge composite in rat calvarial defects (ポーラス α -リン酸三カルシウム/アテロコラーゲンスポンジ複合体のラット頭蓋冠骨欠損での骨再生能の評価)

白石 真教 甲第 696 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Involvement of 11 β -HSD1 in metabolic syndrome and periodontal disease (歯周病におけるメタボリックシンドローム関連酵素 11 β -HSD1 の関与)

加藤 侑 甲第 697 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Effects of JNK on the Production of MMP-3 by Interleukin-1 β -stimulated Human Dental Pulp Fibroblast Like Cells (ヒト歯髄由来線維芽細胞における IL-1 β 刺激による MMP-3 産生におよぼす JNK の影響)

南野 友希 甲第 698 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Induction of craniofacial bone from mouse embryonic stem cells (マウス ES 細胞を用いた顎顔面骨の分化誘導)

後藤 倫子 甲第 699 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Analysis with CT and MR images of tendons and aponeurosis in human masseter muscle (CT および MR 画像を用いたヒト咬筋における腱・腱膜の解析)

大前 有紀 甲第 700 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Biofilm formation of Actinomyces oris strain MG-1 on an orthodontic wire (矯正線表面における

Actinomyces oris MG-1 株のバイオフィーム形成)

小島 智子 甲第 701 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Morphological changes in salivary cells during the use of fixed orthodontic appliances (唾液細胞の矯正装置装着時における形態学的変化)

楠 尊行 甲第 702 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Prevention method of crack generation in laser weld of dental cobalt-chromium alloy casting (歯科用コバルトクロム合金鑄造体のレーザー溶接部に発生する割れの防止法)

国分 麻佑 甲第 703 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Gene expression analysis of cartilage-like components in pleomorphic adenoma (多形腺腫における軟骨様成分の遺伝子発現解析)

渡邊 信也 甲第 704 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Healing process of the maxillary tooth extraction wound in GK rats treated with zoledronate (ゾレドロンート投与 GK ラットにおける上顎抜歯窩の治癒過程)

宍戸 美香 甲第 705 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Facilitation of experimental tooth movement by NOC-18, a long-acting nitric oxide donor (長時間作用型 NO 供与体 NOC-18 による実験的歯の移動の促進)

久保 大樹 甲第 706 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Clinical study on the adjustments required during try-in of crowns fabricated using the bite impression technique and with conventional methods (咬合印象法と通法から製作したクラウンの試適時での調整に関する臨床試験)

田中 睦都 甲第 707 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Influence of prosthodontic treatment during the convalescent phase for care prevention of elderly patients with bone fractures resulting from falls (回復期における補綴歯科治療が転倒・骨折高齢患者の介護予防に与える影響)

内藤 大介 甲第 708 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Development of laser joining method of thermoplastic resin for denture base and dental alloy (レーザーを用いた熱可塑性義歯床用樹脂と歯科用金属の接合法の開発)

橋本 悠佑 甲第 709 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Atomic force microscopy observation of enamel surfaces treated with self-etching primer (原子間力顕微鏡によるセルフエッチングプライマー処理後のヒトエナメル質表面の観察)

幡中 寿之 甲第 710 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Influence of oral sensation on mastication and deglutition (咀嚼嚥下における口腔感覚の影響について)

川崎 俊也 甲第 711 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Effect of Akt on the Differentiation into Osteoclasts Caused by RANKL Stimulation (Akt の RANKL 刺激による破骨細胞分化に及ぼす影響)

安井憲一郎 甲第 712 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Evaluation of Bone Regeneration of Apatite Coating Poly-L-lactide Scaffold in Rat Calvarial Defects (ラット頭蓋骨欠損におけるアパタイトコーティングポリ乳酸足場の骨再生の評価)

太田 啓介 甲第 713 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Optimal cyclic compressive loading promotes differentiation of 3D-cultured pre-osteoblasts (至適な繰り返し圧縮負荷は三次元培養組織における骨芽細胞分化を促進する)

久保 州敬 甲第 714 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Influence of the ratio of α -TCP to autologous bone on bone regeneration in defects around implants (インプラント周囲骨欠損の骨再生におよぼす自家骨と α -TCP の混和比の影響)

尾崎 健太 甲第 715 号 (平成 25 年 3 月 8 日)

Biomechanical analysis of corticotomy (皮質骨骨切り術における生体力学的研究)

大矢 卓志 乙第 1575 号 (平成 25 年 3 月 27 日)

外科矯正した骨格性下顎前突症例における側面セファロ上「嚥下三角」の安定性

平成 25 年度 一般入試合格発表

平成 25 年 1 月 31 日 (木) 午後 3 時、平成 25 年度一般入学試験前期合格者の発表が、3 月 13 日 (水) は後期合格者の発表があり、それぞれ 87 名、3 名が合格した。

平成 24 年度 専門学校卒業式

平成 25 年 3 月 12 日 (火) 午前 10 時より、大阪歯科大学歯科技工士専門学校並びに大阪歯科大学歯科衛生士専門学校の卒業式が、楠葉学舎講堂で挙行された。

歯科衛生士学科第 36 期生 45 名、歯科技工士学科第 48 期生 16 名、歯科技工士専攻科第 32 期生 1 名並びに特別研究生修了 1 名、合わせて 63 名に末瀬学校長から卒業証書が手渡された。



定年退職

平成 25 年 3 月 29 日 (金)、今年度で定年退職される教職員の辞令交付式が行われました。このたび退職されたのは篠原光子先生、馬場忠彦先生、神原敏之先生、嘉藤幹夫先生、前野隆さん、三木慶一さん、西嶋耕治さん、齋藤俊司さん、岡本安子さん、木村洋三さん、下村和子さんの 11 名です。退職にあたり一文を寄稿していただきましたので、掲載いたします。

定年退職の御挨拶

薬理学講座 篠原 光子

平成 25 年 3 月末をもちまして、41 年間お世話になりました大阪歯科大学を定年退職致しました。理事長・学長の川添堯彬先生をはじめ主任教授の先生方、先輩・後輩の皆様方、多くの教職員の皆様方に心から感謝し御礼申し上げます。



昭和 47 年 4 月 1 日に、近畿大学薬学部を卒業後、同級生 2 名とともに（1 人は口腔衛生学講座、他の 1 人は細菌学講座）、私は薬理学講座の森政和前教授のもとでお世話になることとなりました。

19 年間の助手時代には、ジョーンズホプキンス大学医学部腫瘍学センターにて Post-doctoral Research Fellow として 2 年間骨髄移植に携わり非常に有意義な経験をさせて頂きました。また、休日を利用してパイロットのライセンスも取得することができました。

勤めました約 40 年間で、薬理学の領域は非常にめまぐるしい発展をたどってまいりました。受容体の細分化、細胞内二次伝達機構、細胞膜の輸送タンパク機能の解明が進み、副作用の少ない薬物療法の開発に主力が置かれ、この傾向はさらに進み、遺伝子多型性による代謝酵素の種差や個人差に伴いオーダーメイド医療が行われて、さらに iPS 細胞や ES 細胞を用いた薬理作用の解明も進んでまいりました。また治療中の QOL の向上も要求されるようになっていきます。このように複雑化してきているなかで、新しいことを学生と一緒に考え勉強できたことは本当に有意義であったと思っています。

また、20 年前に佐川理事長・学長先生を中心に走友会という会があり、小松のトライアスロン、篠山マラソン、河口湖マラソン、琵琶湖一周のロードレースなどに参加しました。ときには、陸上部の学生も加わり 10 名余りの大人数で楽しんだことも懐かしい思い出です。

これからは、健康に留意し次の目標に向かって有意義な人生を送りたいと考えております。今後とも変わらぬご厚誼を賜りますようお願い申し上げます。

最後に、今までお力添え頂きました皆様に心からの敬意と感謝を申し上げ、大阪歯科大学の益々のご発展をお祈りしております。

懐かしの牧野と天満橋学舎

口腔治療学講座 馬場 忠彦

平成 25 年 3 月末日をもちまして定年退職いたしました。大阪歯科大学入学から、はや 46 年、まさかこの年まで大阪歯科大学に在籍させていただき、無事にこの日を迎えることが出来るとは夢にも思いませんでした。



思い起こせば、紅顔の美青年(?)のころ、初めて京阪電車に乗り、牧野の駅(鄙びた)で降車し、牧野の坂の登り降りの牧野学舎への通学、駅のそばにあった、確か、蕎麦屋さんに立ち寄りしたりしたことなど、懐かしく思い出されます。牧野での学生生活で特に忘れられないのが、骨格標本作製のために、牧野駅周辺の田圃に蛙を捕まえに行ったことなどです。そして 6 年後に天満橋学舎での専門教育を終え、国試にも無事合格し口腔治療学講座の門をたたきました。新規に入局しました同級生は 6 人で、当時の口腔治療学講座主任教授の福地芳則先生や諸先輩方には臨床で大変お世話になりました。その後、先代教授の戸田忠夫先生には臨床、研究さらに講義等に関する指導をしていただきました。

当時の学会発表は、パワーポイントのような便利なものはなく、スライドの原稿は主にタイプライターあるいはレタリングで作成し、写真撮影後に青抜きのスライド作成という大変手間がかかったことを思い出します。そして、気に入った青抜きのスライドが出来ず、挙句の果てに「一杯飲みに行くか!」という事が多々ありました。また、学会のプレゼンテーションでは、壇上で物干し竿のような長い竹の指示棒をポイント代わりに振り回した事もすべて、今となってはいい思い出です。

戸田先生が退職され、主任教授に林宏行先生が就任された頃、CBT、OSCE が本格的に動き出しました。このための会議や準備、あるいは OSCE 外部評価者と

して他大学に出張するなど、忙しいながらも充実した日々を過ごさせていただきました。また、本学6年生の学士試験に良質な試験問題が必要とされ、基礎系の先生方および臨床系の先生方が集まり、各講座から提出された問題をブラッシュアップする作業に従事することになりました。これまで、臨床系と基礎系の先生方との意見交換という機会が少なく、臨床系の考え方、そして基礎系の考え方に少しギャップがあり問題を仕上げるのに会議が前に進まなかった記憶があります。しかし、出来上がった問題は以前のものとは違い、なかなか洗練されたものではないかと自己満足ではありますが納得したものです。また、ブラッシュアップ会議で得た情報などを参考にし、講義等に非常に役立つものと感じております。平成25年の3月には天満橋に大阪歯科大学創立100周年記念館が完成し、教育効果がさらに増すものと思います。ただ、新校舎で講義が出来ないことが私には少し心残りです。

最後になりましたが、この日を無事に迎えることが出来たのも恩師、先輩諸氏、同僚そして大阪歯科大学の多くの教職員の皆様方のお蔭と、感謝の念でいっぱいです。本当に有難うございました。そして、大阪歯科大学の更なる発展を心からお祈り申し上げます。



定年退職を迎えて
教育情報センター事務室 三木 慶一



平成25年3月31日をもって定年退職いたしました。

大過なく今日を迎えることができましたのは、ひとえにみなさまの温かいご支援と、ご指導の賜ものと心から深く感謝しております。



奉職時は、大学を卒業したばかりで、学生時代から続けていたコンサート興行事務所でアルバイトをしていました。そんな折に知人から大阪歯科大学で働いてみないかとお誘いを受けて、面接のため私が初めて大学を訪ねたのは、忘れもしません昭和48年(1973年)5月1日のことでした。今でもその時の光景が目に浮かびます。天満橋駅から大学に向かう途中で、大阪城方面からのデモ行進に遭遇しました。そうメーデー

ーの日だったのです。面接を終えると「では、来週から来てください」といわれ、突然のことで驚いたのを昨日のこのように記憶しています。

当時は、内定が出ていた商社にも就職せず、アルバイト先で好きな音楽に囲まれ、結構充実した日々を過ごしており、しばらくは定職に就くことなど考えてもいませんでしたが、面接いただいた当時の吉田学生課長に惹かれ、3ヶ月の試用期間だけでも勤めてみようと思ったのが始まりでした。それが無事定年まで勤められたのですからなんと不思議です。

最初の配属は教務学生部でした。主たる業務は、厚生補導に関することでしたが出席管理や学生課窓口での各種証明書の発行、施設貸出し業務、奨学金事務などを担当し、学生と向き合う業務に携わっての5年間は新鮮なものでした。昭和53年(1978年)5月からは、医事課(中央材料室・中央受付)に勤務し、附属病院で使用される医療材料などの購入・出庫・在庫管理、歯科技工物の受発注、歯科用貴金属の管理の側から中央滅菌室の業務管理などのほか、患者窓口業務も経験した15年間でした。中でも医事業務に係わった時の困惑は、今でも鮮明に覚えています。事務処理の不備や患者サービスが軽視されがちで、それまで行われていた慣行を改める必要がありました。それには事務作業の見直しや意識改革など旧態依然としたそれまでの体質改善が必要で、当初苦悩したことを覚えています。少しは業務を改善することでお役に立てたのではないかと考えています。平成5年(1993年)4月からは教務学生課でカリキュラム編成、授業・試験時間割の作成、学業成績の管理など学生の修学に関する教学業務を4年間経験しました。そして、平成9年(1997年)4月からは、楠葉・天満橋学舎の竣工にあわせて設置された教育情報センター事務室で、ネットワークの管理や学内の情報化などの業務を担っての16年間でした。教育情報センター発足当時から、毎日が手探りの状態で、初代教育情報センター所長の神原教授には、ご心配とご迷惑をおかけしましたが、随分と恵まれた環境で業務にあたらせていただき感謝しております。

省みますと、人生の半分を大阪歯科大学で送ったこととなります。私なりに前向きに精一杯取り組んできたつもりですが、常に周りの人に助けていただいたような気がしております。その中でも教育情報セン

ター事務室では、多くのことを学び勉強をさせていただき、自分自身大いに成長できたことを実感しております。今では私の財産になっています。

教育情報センター事務室では、ネットワークの運用管理、教育・管理業務システムの運用管理、病院情報システムの運用管理、学内の教育情報機器の運用・整備などの日常業務のほか、教育支援システムの構築や教育・研究の情報化推進に向け、責任ある立場で職務を遂行させていただき機会をいただき本当に貴重な経験ができました。しかし、教育情報センターが果たすべき職務については、その職責を果たせたかという点、決して満足いくものでなかったことを痛感すると同時に、力不足を反省しています。

教育現場での ICT 活用は、すでに実践や研究でその有効性が証明されており、教育に欠かせないツールとなっています。本学でも情報インフラは整備され、多くの教育支援システムが活用されていますが、ICT の教育活用が十分でないことも事実です。課題もそれに比して山積しています。また、社会では人材の育成など社会の期待に応えられない大学教育への不満が噴出しており、「大学教育の質の向上」が求められています。その取り組みは遅れているのが現状です。そこで中央教育審議会では、昨年 8 月「大学改革実行プラン」として、今後の具体的な改革方策を答申し、迅速・着実に実施することを大学に求めました。教授法の改善など教員はもちろんのこと職員も意識改革をしていく必要があると考えます。社会との関わりの中で、新しい大学づくりに向けた改革を進めていく上で、大学のガバナンスの充実と強化の必要性、学生の能力を高めるための学生のための改革、ユニバーサル・アクセスの時代に突入した今、まさに大学の力量が試されているといえます。

このようなことを考えるに、私のような凡庸な輩をよくここまで教育し、仕事の機会を与えていただいた大学に深く感謝しています。また、私をサポートしてくれたスタッフの皆さんに心より感謝申し上げます。

最後に、大阪歯科大学が世界に開かれた大学として、さらに発展していくことを祈念いたします。皆さん、本当に長い間ありがとうございました。

定年退職挨拶

医事課 西嶋 耕治



昭和 50 年 4 月に大阪歯科大学付属歯科技工士学校に助手として採用していただき、32 年間専門学校で学生教育に専念してまいりました。

平成 19 年 4 月から技工士専門学校の改革があり職種変更で附属病院医事課へ事務職として配属になりました。以後 6 年間西館 6 階の材料室で技工物の管理や、臨床実習の学生さんへの器具の貸し出し、及び若い研修の先生方のいろいろな相談等有意義に勤務させていただきました。

附属病院に勤務した頃は保険点数を覚えたり、慣れないパソコン操作ととまどうことが多々ありましたが、先生方や職員の皆様方にやさしく接していただいたおかげで、なんとか定年を迎えることが出来ました。

また昨年は大阪歯科大学の 100 周年事業に於いては、何も出来ませんでした。記念誌の委員として参加出来たことも心に残ると思います。

定年後はまた歯科技工の仕事ができる限り続けて行こうと思っています。

最後に、今日まで 38 年間支えて下さった教職員の皆様方に感謝しております。本当に有難うございました。

物理学教室教授就任

平成 24 年 5 月 1 日付で、辻林 徹先生が物理学教室の主任教授に就任されました。ここに先生のご略歴と就任ご挨拶を掲載します。

物理学教室教授

辻林 徹 (つじばやし とおる)

博士 (理学)

昭和 39 年生まれ、48 歳

< 学歴 >

昭和 61 年 3 月 京都大学理学部卒業

昭和 63 年 3 月 京都大学大学院理学研究科修士課程
(物理学第一専攻) 修了
平成 元年 3 月 京都大学大学院理学研究科博士後期
課程 (物理学第一専攻) 退学
平成 6 年 3 月 博士 (理学) の学位取得 (京都大学)
<職歴>
平成 元年 4 月 大阪歯科大学助手
平成 3 年 4 月 大阪歯科大学講師
平成 21 年 4 月 大阪歯科大学准教授
平成 24 年 5 月 大阪歯科大学教授 (物理学)

教授就任挨拶
物理学教室 辻林 徹

平成 24 年 5 月 1 日付で物理学教室主任教授を拝命した、辻林 徹です。100 年を超える歴史を持つ大阪歯科大学の教授会のメンバーに加えていただいたことを大変、光栄に感じるとともに、これから果たさなければならない初年次教育と基礎科学教育に対する責任の重さを改めて感じています。全力を尽くして職務にあたる覚悟ですので、皆様のご支持、ご鞭撻をお願いします。



大学の 1 年目は、初等・中等教育を修了した学生が高等教育を受ける最初の年です。大学では高校と異なり、自ら学ぶことを期待されています。高校までゆとり教育を受けた学生は、内容の精選により、詰め込みでない真の学力を身につけていることが期待されたのですが、実際には、知識がばらばらのままで定着せず、応用力がついていないまま入学する学生が多数出てしまいました。一方、大学における専門教育では以前と変わらない基礎学力を学生に求めます。私は、そのギャップを埋めるための初年次教育と基礎科学教育の充実に取り組む所存です。

私は平成元年に物理学教室助手として赴任して以来、今日まで本学に奉職してきましたが、学生を取り巻く社会情勢の大きな変化を感じずにはられません。本学では平成 14 年度から実施のカリキュラム 2000 を経

て、平成 24 年度から更に新しいカリキュラムで学生を鍛えようとしています。昔の時代の新生生とは異なり、現在の新生生は入学時の準備が十分とは必ずしも言えない上に、歯科医師国家試験の難関化により、更に厳しい勉強を課さなければならない状況です。時代がなせるこの差は非常に大きく、学生個人の努力だけでは補えない部分もあるので、大学がこれまで以上に教育力を発揮することが求められています。

初年次教育は入学前教育から始まり、決して、ある一つのコースの履修のみで成り立つものではありません。それは、学習する態度の醸成やスキルの習得を含んでいるからです。1 年生の教育にあたる、一般教養教育担当教員を含めた教員すべてが、密に連絡をとりながら教育にあたらなければ、なかなか効果が出にくいと思われま。学生一人一人の特性を見極めながら、教員が繰り返し、辛抱強く学生を指導していく態勢を整える必要があると考えます。

物理学は、その適用範囲が広く、他の学問領域と親和性があります。生物物理、物理化学、更には経済物理といった境界領域もあるほどです。私は、実験教育を重視したいと思います。手を動かすこと、計算して比較すること、結果を吟味して間違いに気が付くこと、間違いを修正すること、レポートを作成することなど、実験は多くの刺激を学生に与えます。私は物理学教育をとおして、学生の基礎科学の学力向上に努めます。

さて、ここで、研究面に関するに移りたいと思います。20 世紀は科学の世紀と言われるほど、自然科学がよく発達しました。多くの重要な発明や発見が相次ぎましたが、光源における 20 世紀最大の発明は、レーザーと放射光施設です。私は自然科学研究機構分子科学研究所極端紫外光研究施設において、この二つの光源を同期させて用いる手法を開発するための研究チームに参加しました。ガンマ線を可視化するためのシンチレーターの一つにフッ化バリウムという物質があります。私たちはこの物質における内殻励起子準位を明らかにし、私たちが開発した手法の有効性を示すことができました。

現在行っている研究は、Er:YAG レーザーから出る赤外光を使って、アミノ酸に重合反応を起こさせるというものです。このレーザーは歯硬組織の切削に用いられ、2.94 μm の発振波長は水酸基の伸縮モードとほぼ一致します。切削機構は、組織に含まれる水分子が

エネルギーを吸収して組織を破壊するというのが定説でした。最近、私は学内での共同研究により、組織の隙間に入り込んだ水分子の爆発的気化も切削に重要な役割を果たしていることを明らかにしました。さらに、Er:YAG レーザー光が脱水重合反応を誘起し、ペプチド鎖の合成を促進することを明らかにしました。アミノ酸の重合は脱水縮合反応ですが、重合で放り出される水の分子振動の周波数の光をあてると、この反応が促進するという、一見、ものごとの順序が逆に見える現象は、量子力学的には許容されるものです。今後もこの線に沿った研究を継続することを考えています。

第1回のノーベル物理学賞がエックス線を発見したレントゲンに授与されたことに象徴されるように、物理学と医療の関わりは長く深いものがあります。現状と経験則から少し距離を置き、根本原理に立ち返って解決策を求める物理学的方法論は、歯科医療の現場における問題解決に必ず役立つものと考えます。歯科で最もよく使われるエックス線に限らず、私は、電磁波をも広く一般の歯科への応用を視野に入れ、装置開発の面からも微力ながら21世紀の歯科医療の発展に貢献したいと考えます。

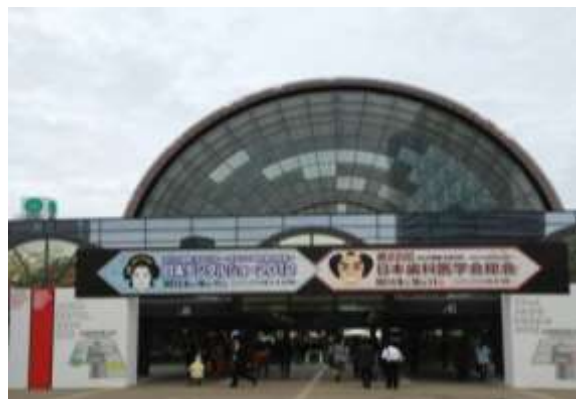
oo

第22回 日本歯科医学会総会開催
お口の健康 全身元気
— 各世代の最新歯科医療 —

oo

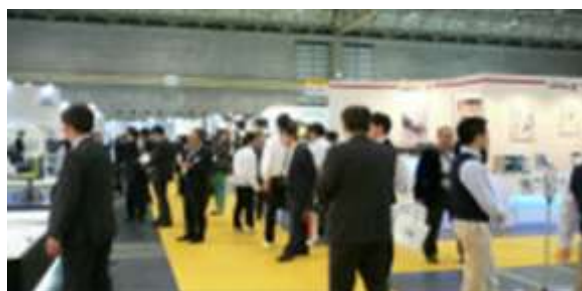
平成24年11月9日(金)から11日(日)までの3日間の日程で、第22回日本歯科医学会総会が大阪国際会議場並びにインテックス大阪で開催されました。この総会は4年に一度開催される歯科界最大規模の学術大会であり、大阪では平成3年以来、21年ぶりの開催になりました。本総会の主幹校として大阪歯科大学が選出され、川添堯彬理事長・学長が会頭に就任し、田中昭男教授を準備委員長、諏訪文彦教授を事務局長に指名して鋭意準備を進めてまいりました。お陰様で盛会裏に総会を終えることができました。全国から12,000名を超える歯科関係者のご参加を賜り、所期の目的を達成できました。

今総会の開会講演の演者として、ご快諾頂いておりました山中伸弥先生(京都大学iPS細胞研究所所長)のノーベル医学生理学賞受賞の決定に伴い、公務のた



め日程が合わなくなりましたので、先生の一番弟子である高橋和利先生(同研究所講師)をご紹介頂き、山中先生と同じ演題でご講演を頂き、出席者一同大いに感銘を受けました。

大阪国際会議場では、開会式そして開会講演の他、最新の研究内容をテーマとした各種講演、シンポジウム、国際セッション、視聴覚プログラム、歯科学生のポスター発表、府県民フォーラム、ランチョンセミナー、サテライトシンポジウム等、数多くの講演、発表が行われました。一方、インテックス大阪においてはテーブルクリニック、一般のポスターセッション、初めての試みである分科会プログラムが実施されると共に併催された日本デンタルショー2012では、最新の歯科医療機器が展示され何れも盛況でありました。



なお、本学では学部学生、附属の衛生士専門学校生に開会講演の参加を義務付けると共に感想文の提出を求め課外授業の一環として教育効果を高める場となりました。

また、今総会では歯科大学歯学部ブースを設置することが出来るようにご配慮頂き 11 大学が参加する中、本学のブースにも多数の同窓生および総会参加者の皆様に立ち寄って頂き幅広い広報活動も展開できました。

最後に、全国より多数ご参加いただきました、歯科医師、歯科大学の教職員、関係研究機関、その他同伴されました皆様方、並びに協賛頂いた歯科機材メーカー、本学関係者各位のみみなさまの多大なるご支援とご協力に対しまして、この紙面をお借りいたしまして厚く御礼申し上げます。



Osaka Dental University/
Columbia University
College of Dental Medicine
Continuing Education Program



Osaka Dental University / Columbia University College of Dental Medicine Continuing Education Program は大阪歯科大学と国際交流協定校である米国コロンビア大学との共同企画の下、実現されたプログラムで米国コロンビア大学にて、平成 24 年 7 月 8 日（日）に伊丹空港より渡米し 7 月 14 日（土）に帰阪するスケジュールで開催されました。（実質研修期間：7 月 9 日（月）から 7 月 12 日（木）の 4 日間）

このプログラムには大学代表である川添堯彬理事長・学長、山本一世国際交流部長（団長）、馬場俊輔口腔インプラント科専任教授（副団長）、通訳担当の藤田淳一英語学教室准教授を含め名誉客員教授、客員教授、教員、大学院生、卒業生等の本学関係者を中心とした構成により総勢 23 名の方々が参加されました。



今回のプログラムは、歯周病インプラント治療の世界的権威であり第一人者でもある Dr.Dennis P.Tarnow コロンビア大学歯学部教授を筆頭講師とし同大学歯学部が誇るインプラント治療医 9 名の講師陣による講義を通じて米国における口腔インプラント治療の最新技術を習得するセミナーで少人数制による密度の濃いプログラムとなりました。

日程にはコロンビア大学講師陣と参加者の親睦を図る目的でコロンビア大学主催のパーティー、本学主催の学長招宴等も開催されたことにより一層充実したセミナーとなりました。

また、プログラム初日にコロンビア大学 Ira B. Lamster 名誉歯学部長の講演、川添堯彬理事長・学長の講演が行われました。

理事長・学長は講演の後、Ronnie Myers コロンビア大学歯学部長より同大学名誉客員教授の称号を授与されました。



「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究」始まる



文部科学省・平成 24 年度「基礎・臨床を両輪とした医学教育改革によるグローバルな医師養成」事業の一つ「医学・歯学教育認証制度等の実施」において、本学も連携大学として名を連ねる「歯学教育認証制度等の実施に関する調査研究」（東京医科歯科大学申請）が歯学部門で採択されました。

このプログラムは昨今、大学教育の質保証が社会的に問題提起される中、我が国の歯科医師養成の質保証担保のため、歯学教育に特化して大学分野別評価につき調査研究し、認証評価基準を策定のうえ、トライアルとして認証評価を行うというもので、本学の歯学教育を国際標準に照らして検証し、教育内容の改善に不断に努めていくことを示しています。

平成 24 年 8 月 1 日付で上記調査研究の共同実施に関する協定を東京医科歯科大学並びに連携大学の新潟大学、九州歯科大学及び東京歯科大学と締結しました。

歯学教育の国際化に向け有意義な本プログラムに取り組むことで、国際的に通用性のある教育を本学生に提供し、本学が目標とする「学生の国際交流力増強」にも相乗効果を与えるものと考えています。

枚方市との連携協定等締結

本学と枚方市は、包括的な連携のもと、地域活動において相互に協力し、地域社会の健康・医療の充実と人材育成に寄与することを目的に連携協定を締結し、平成 24 年 7 月 18 日（水）に調印式が枚方市役所で行われました。



協力事項は、(1)地域の健康・医療に係る調査研究及び事業の実施に関すること、(2)教職員・学生による地域の各種活動への参画に関すること、(3)歯学関連の啓発活動に関すること、(4)地域と連携した人材の創出に関する事などであり、具体的な取組みとして、従来から開催している公開講座の更なる充実や、市の事業への積極的な学生の参加から進めていきたいと考えています。

また、8 月 4 日（土）には同じく「健康医療都市」を標榜する枚方市の呼びかけにより、本学をはじめ同市に拠点をもつ医療関係の 12 団体（保健所、医師会、歯科医師会、薬剤師会、3 大学、5 病院）が参画し、枚方市との間で健康医療都市コンソーシアム協定を

締結、健康・医療に関わる社会資源の共同利用や情報ネットワークの共有等を目的に連携事業を展開していくことになりました。

なお、コンソーシアムの会長は枚方市長が務め、本学の川添 堯彬理事長・学長が副会長に就任しました。



平成 24 年度 父兄会・共済会総会開催

平成 24 年度の父兄会・共済会総会は 6 月 30 日（土）午後 1 時から楠葉学舎講堂で開催され、多数の父兄が出席されました。

父兄会は新旧父兄会幹事長と川添理事長・学長の挨拶に続き、川合学生部長が学内報告を行い、父兄会・共済会の平成 23 年度決算並びに平成 24 年度予算が承認されました。総会後に行われた学年別個人懇談会では、295 名の父兄が参加され、学年指導教授らと子弟の学業面、生活面について熱心に懇談されました。

平成 24 年度 6 学年父兄会並びに地方父兄会開催

平成 24 年度の 6 学年父兄会は、9 月 17 日（月）敬老の日に楠葉学舎で開催され、ご父兄 70 名が出席されました。全体会合の後、個人懇談会が行われました。

また、平成 24 年度の四国地区父兄会は 8 月 12 日（日）高松市において行われ、ご父兄 12 名が出席しました。本学からは川添理事長・学長、田中教務部長、川合学生部長ほか関係者が出席し、学内報告などを行い、引き続き個人懇談を行いました。

平成 24 年度 オープンキャンパス実施

第 1 回が 5 月 27 日(日)、第 2 回が 7 月 22 日(日)、第 3 回が 8 月 26 日(日)、第 4 回・5 回が 11 月 3 日・4 日(土・日)に開催され、全回を通じ延べ参加者数は、過去最高の 300 名(内、受験生等は 151 名)を数え好評のうちに終了しました。

当日のプログラムとしては、本学の入試概要説明、在学生による学生生活の説明、学内施設見学、実習体験、個別相談会があり、第 5 回では予備校による入試対策講座が行われました。

平成 24 年度 学生短期海外研修派遣

本学からの派遣としては、南方医科大学口腔医学院に学生 6 名(第 2、3 学年)、シドニー大学歯学部 に学生 5 名(第 3、4 学年)、コロンビア大学歯学部 に学生 9 名(第 5 学年)が参加し、学生の勉学に対する意欲の向上に役立った。



コロンビア大学歯学部への研修



南方医科大学口腔医学院への研修



シドニー大学歯学部への研修

平成 24 年度 海外協定校の学生受入れ

海外協定校との学生交流については、シドニー大学歯学部から 5 名の学生が、北京大学口腔医学院から学生 3 名と教員 1 名が本学に来学し、活発なディスカッションにより交流を深めた。



第 44 回 全日本歯科学学生総合体育大会

例年恒例の歯学体(冬期大会:平成 23 年 12 月 25 日~平成 24 年 3 月 18 日、夏期大会:平成 24 年 8 月 1 日~平成 24 年 8 月 13 日・主催:全日本歯科学学生体育連盟、後援:文部科学省/鹿児島県教育委員会)が鹿児島大学歯学部を事務主管に開催された。



今期のメインテーマはくいぎ体感！熱き薩摩の心意気>であり、各大学歯学部の特選選手による熱戦が繰り上げられた。

総合成績では、本学は第7位で、優勝は日本大学歯学部、準優勝は日本大学松戸歯学部であった。

部門別では、アーチェリー部と漕艇部が優勝し、バトミントン部と空手部が準優勝であった。

誠にめでとうございました。さらに今回の大会に参加した全ての学生諸君の健闘を心から称えます。

第44回全日本歯科学生総合体育大会総合成績一覧

順位	大学名	得点	順位	大学名	得点
優勝	日本大学歯学部	170.00	16位	昭和大学歯学部	34.50
準優勝	日本大学松戸歯学部	147.00	17位	法医学科歯学部	33.75
3位	愛知学院大学歯学部	147.00	18位	岡山大学歯学部	31.75
4位	東京歯科大学	114.50	19位	鹿児島大学歯学部	31.50
5位	日本歯科大学生命歯学部	109.00	20位	九州大学歯学部	31.00
6位	福岡歯科大学	94.25	21位	神奈川歯科大学	27.00
7位	大阪歯科大学	94.00	22位	日本歯科大学新潟生命歯学部	23.25
8位	九州歯科大学	77.50	23位	北海道歯科大学	19.75
9位	明海大学歯学部	60.25	24位	鹿児島大学歯学部	16.50
10位	東北大学歯学部	59.00	25位	松本歯科大学	16.00
11位	広島大学歯学部	51.50	26位	北海道医療大学歯学部	12.00
12位	福井大学歯学部	51.75	27位	徳島大学歯学部	10.75
13位	東京医科歯科大学歯学部	44.00	28位	新潟大学歯学部	7.25
14位	大阪大学歯学部	41.00	29位	琉球大学歯学部	6.00
15位	朝日大学歯学部	26.41			

平成24年 秋の褒章・叙勲受章者

平成24年秋の褒章・叙勲において、大阪歯科大学関係者として以下の先生方が受章されました。

褒章

大学 23 回 竹田 信也 徳島県 藍綬褒章

叙勲

大学 9 回 宇根 敏行 広島県 旭日双光章
 大学 14 回 長谷川 勝 福井県 旭日双光章
 大学 14 回 林 泰弘 和歌山県 旭日双光章

第20回 大阪歯科大学公開講座

平成5年より毎年、夏と冬に開催している公開講座も皆様のご支援・ご協力により、記念すべき第20回目を迎えることができました。第20回大阪歯科大学公開講座が、9月1日と8日の2日間、天満橋学舎西館5階臨床講義室にて、2月23日と3月2日は楠葉学舎講堂において開催されました。

講演後も参加された市民から多くの質問があり、健康への関心の高さを示していました。

【メインテーマ】 歯との長い付き合い

日程	サブテーマ	講師
【天満橋講座】 平成24年9月1日(土)	子ども時代で決まる歯の寿命	小児歯科学講座 教授 有田 憲司
【枚方講座】 平成25年2月23日(土)	喫煙とお口の健康の関係 -楽しくタバコをやめる方法を教えます-	歯科医学教育開発室 教授 王 宝禮
【天満橋講座】 平成24年9月8日(土)	歯周病の細菌診断と治療	歯周病学講座 教授 梅田 誠
【枚方講座】 平成25年3月2日(土)	入れ歯はどうして大切な？	臨床研修教育科 教授 前田 照太

【天満橋講座】の様子



【枚方講座】の様子

ひらかた市民大学 2012 開催

11月17日(土)、枚方市内6大学との連携による講座「ひらかた市民大学2012」が本学楠葉学舎大学院講義室にて開催されました。

歯科医学教育開発室の王宝禮専任教授が講師を務め、「あなたのお口の悩みにお答えします」をテーマに講演を行いました。

当日はあいにくの雨でしたが、38名の市民の方々が参加され、講師のユーモアあふれる講義に、受講者も和やかな雰囲気の中で熱心に聞き入っておられました。講義の最後には、受講者からのお口の悩みに関する質問に一つ一つ丁寧に答えていただきました。



第44回 大学祭

第44回大学祭が下記の日程で行われた。楠葉祭の3日・4日は「オープンキャンパス」も開催した。

体育祭 : 10月27日(土)

楠葉祭 : 11月3日(土)~4日(日)



平成24年度 自衛消防訓練

平成24年度の自衛消防訓練が、11月19日(月)午後4時から楠葉学舎副門守衛室前において実施された。本学の防災担当者である能美防災(株)の立会いのもと、川添消防隊長以下約100名の教職員が参加し、本学の防火管理体制の充実を図る目的として行われた。

訓練は、5号館1階事務室内「給湯室」から出火したとの想定で、第一発見者が火災を周辺に知らせ、火災発生を連絡する通報訓練から始まった。各要員が①避難誘導、②警戒、③搬出、④工作、⑤救助等の役割を果たしながら、速やかに副門守衛室前に避難した。

各班全員避難を確認後、能美防災の指導のもと水消火器と屋内消火栓による⑥初期消火訓練を行った。

最後に、川添消防隊長から本日の訓練の成果を踏まえ、火災予防に役立ててほしい旨の要請があり訓練は終了した。

天満橋学舎では、10月2日(火)午後4時から自衛消防訓練、11月26日(月)午後4時から夜間の火災を想定した訓練を実施した。

牧野学舎では、12月3日(月)午後3時半から自衛消防訓練を実施した。



平成24年度 実験動物慰霊祭

平成24年11月30日(金)午後1時30分から実験動物慰霊祭が牧野学舎動物塚にて執り行われた。

曇り空の下、落ち葉に埋もれた牧野学舎の中庭にて多数の教職員・大学院生および学生が参列し、清岸寺導師の読経が響く中、実験動物慰霊祭が開始された。

川添堯彬学長、川合進二郎生物学教室代表、西川泰央大学院研究科科長、戸田伊紀動物施設長の代表焼香に続き、教職員、大学院生、学部学生が焼香を行い、歯科医学、教育のため犠牲となった動物たちの霊に感謝の意が捧げられた。

最後に川添学長より、歯科医学の教育、研究のために身を捧げた動物達の冥福を祈る、慰霊の辞が述べられ、参加者一同、改めて冥福を祈りました。

平成 24 年度 教職員忘年慰労会

12月28日(金)午後3時から、恒例の教職員忘年慰労会が「プラザ14」で開催され、150名を超える教職員が参加しました。

川添理事長・学長から開会の挨拶があり、続いて、下村常務理事の乾杯の音頭により忘年慰労会はスタートしました。

しばらく歓談のときが流れ、お楽しみ抽選会では、理事長賞(旅行券)が図書課の白石さん、学長賞(商品券)が生理学講座の井上先生、図書カードが歯科技工士の堀内さんほか3名の教職員に贈られました。最後に、田中常務理事から中締め挨拶があり、様々な感慨とともに1年が終了しました。



平成 25 年 新年互礼会

1月7日(月)、午前10時から平成25年新年互礼会が楠葉学舎講堂で開催され、教職員はじめ関係者多数の出席のもと、川添理事長・学長が年頭所感を述べた。昨年と同様にパワーポイントを用い、平成25年度の大学の事業方針などについて、約1時間熱弁をふ

るった。その後食堂に場所を移し、和やかに新年の交歓会が開催された。



新年互礼会 年頭所感
理事長・学長 川添 堯彬

ご来場の皆様、この新年におきまして、本日、ご多忙の中、早朝からお集まりくださりまして、誠にありがとうございます。昨年中は、特に教職員全員が一丸となって、本学のためにそれぞれの業務を鋭意奮闘努力いただいたことを改めて、今年の冒頭に感謝したいと思います。

本年は、100周年の次の目標として何を指すかということ、この年頭に当たって関係者の方々に特に聞いていただきたいと思っております。総論といたしましては、次の目標ということ、100周年記念事業のときに誓いましたので、その後のことに対して、本学のさらなる継続と発展を目指して進まないといけないわけでございます。具体的には、この後のスライドでありますけれども、もう少しばかり説明申し上げたいと思います。

全体として、この新年の年頭に当たりまして、平成25年こそ新しいことに挑戦する年、すなわち「挑戦の年」というふうに位置づけて、心に銘記しておく次第でございます。新規改革のためには、逆風や不況の中にあるときにこそ、現在はその真っ只中にあると言っても過言ではありませんけれども、そういうときこそ、それらに打ち勝つパワー、エネルギー、あるいは底力が生まれるのではないかとというふうにも考えるわけがあります。その意味で、今年からのこの年こそがこの不況、逆風を克服するために活動する絶好のチャンス
のときではないかと、このときの到来ではないかと思
って、今年はそれらを目指して勇往邁進する。「勇往邁
進」という言葉に示すとおり、脇目も振らずに必要な
目的に向かって、前へ進む覚悟をいたしている次第で
ございます。本学の教職員の皆様方をはじめ、本学に
関係するすべての人にとりまして、どうか私たちと一
緒にこの歯科界といいますか、あるいは特定の歯学部
を持つ大学の発展に向けて、色々な英知を貸してい
ただきたい、あるいは一緒に協力して進んでいただ
きたいと思う次第であります。

それでは、これからしばらく貴重な時間をお借り
いたしますけれども、どうか今年の新たな考えを皆様
方に聞いていただきたいと思う次第でございます。ど
うぞよろしくお願いいたします。

後ろの方では少し見づらいところがあるかもしれ
ませんが、よろしくお願ひしたいと思います。

それでは、本日1月7日、月曜日の年頭になります
けれども、お話しさせていただきたいと思ひます。

昨年は壬辰の年ということで閏年だったのですけ
れども、こういった運勢が暦の中では、潜在能力を高
めるとか、少し動きが感じられるということで、光に
向かうということがあったわけでございます。本学にお
きましては、その数年前から立案いたしました計画に
基づいて、いろいろな改革がかなり進んだと思ってお
ります。特に、大学の中での教授会を中心としての、
あるいは理事会でのことでの改革とか規程の改正とか
そういったことを進めました。

大きなこと、特別事業といたしましては、創立100
周年記念事業をほぼ達成いたしました、7本柱に分
けてありますけれども。あと今年の3月中に完成いた
します100周年記念館—後で申しますけれども、そ
れと、全体としての100周年記念誌は、平成24年度

中には完成する手はずであります。

もう1つは、昨年11月9、10、11の3日間にお
いて大阪で21年ぶりに開催されました第22回の日本
歯科医学会総会の開催を本学が主管いたしまして、全
国から随分盛会だったということでの評価をいただき
て、これもほぼ終えたので、ほっとしているところで
ございます。

平成25年は「癸巳（みずのとみ）」（図1）

さて、今年の干支ですけれども、25年は癸巳の年
ということで、この癸というのは時期をはかる、ねら
うということで、我々の業務に関係することを拾って
みますと、計画等の価値とか効果を図って、仕掛け
の時期をねらうというような文言が見られます。巳年
ですけれども、この時期は変化する、新しい活動をし
ることがいろいろ言われるわけでありまして。こうい
うときにこそ、新規の方策とか手段、第2の方策、手
段を講ずるときではなかろうかというふうに解釈いた
しております。

【図1】



先ほど、冒頭に申し上げましたように、2013年、平
成25年こそ、本学にとりまして新たなことへの挑
戦の年というふうに位置づけて進みたいと思っております。

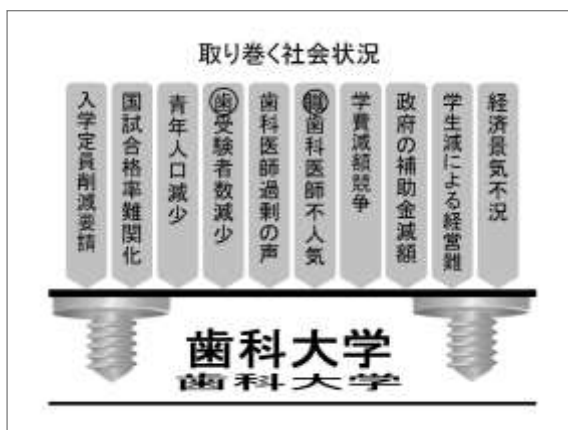
これはまた別の南天、福寿に白蛇がこのように天に
向かって昇ろうとしているということでもあります。

これを勇往邁進の言葉4文字にしています。これは、
夢を胸に目標を目指して勇往邁進しようとする大阪歯
科大学ということでございます。これは学生にもよく

オープンキャンパス等にも常に言っているのですけれども、まずは大目標であると。これは歯科医師になつてからの大目標を、学生をはじめ、みんなの夢として先にそれを描いてほしい。そして、もっと目の近くにある目標を目指して—本学ではそれぞれ5年及び2年前から掲げております「五つの力の目標」と「三つの力の追加目標」の合計八つの目標を掲げておりますけれども、それは既に軌道に乗っているものもありませんし、まだ未達成のものもございます。今年は特にそれらをくまなく、さらに実現達成に向けて勇往邁進しようという、これが特に私どもに課せられたものであらうと思います。

それで、もう早くから、5年以上前から我々の大学、歯学部を有する大学を取り巻く社会状況はこの(図2)ように10個のいろいろな重圧と申しますか、逆風と申しますか、苦境が乗っかっております。それで、毎年少し軽くなるのはどれだろうというふうに見るわけでありまして、だんだんとこれらも難しくなってくるし、また入学定員の削減要請も厳しく、それから歯科医師の需給問題とか、あるいは経済の不況だとか、そういったことでとても苦しい状況下に社会状況はあるのではないかと思います。

【図2】



それで、さらに喫緊の問題としてこの6つ—昨年は5つでしたけれども、入学定員の削減要請、あるいは国家試験合格率の難関化、学費の減額競争が日本国の歯科大学では起こっております。補助金の減額、それから学生減による経営難というのが特に重く残っておるわけでありまして。

それで、それらを克服するといいますか、本学に照

らし合わせてその課題を拾ってみますと、やはりこういうふうな絵になります。(図3)

【図3】



黄色いほうはまだどんどん進んでおりますし、軽いといえは軽いのですけれども、さらに次の目標は財務の問題、それから大学院とか研究力の問題、教員力、教育力、このピンクのほうにさらに加わって、これももうすぐにすべてに手をつけないといけない課題でございます。

それで、先ほどの夢を胸にと申すところが、学生にも常に言っているのですけれども、本学の建学の精神の中に何度も毎回お見せしているわけでありまして、それをもう一度見てみたいと思います。

本学の創立者の藤原市太郎先生が明治44年12月12日に残しておられる言葉として、「学校経営事業は営利に非ず、博愛公益のために努力するものなること」というのが建学の精神のバックに営々と残って100年たったということでございます。ですから、やはりここを、こういった時代にこそこの言葉をもう一度かみしめる必要があるのではないかと申すことで、福島区に建立いたしました創立記念碑にも、この文章を石碑に刻んでございまして、100周年記念事業として大阪市の場所を借用させていただきまして、そこに建立をいたしましたものでございまして。

この言葉を英語で見ると、フィランソフィー (philanthropy) というのが博愛であります。これは、もともとキリスト教からの言葉の意味合いが多いのですけれども、仏教では慈悲だとか、そういった言葉でも置きかえられるということでも言われております。

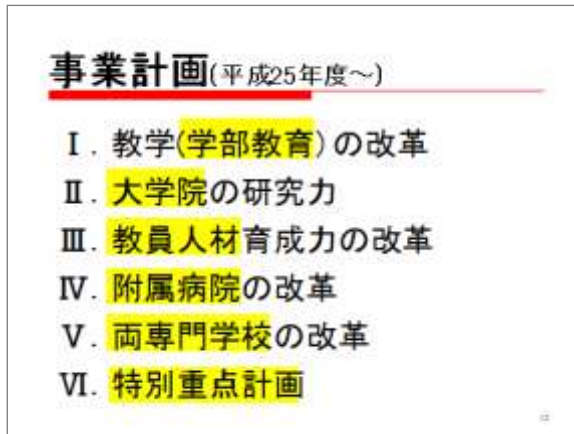
それから、公益というのはぐっと社会性が高いもので、パブリックインタレスト（public interest）という言葉で総称されることであります。これを別々に、あるいは一緒に並べてこれらが使われていることが多いのですが、それだけでも——我々はやはりややもすると目先のことだけにとらわれて、とらわれたときにこそこの言葉をもう一度かみしめると。これは時代を超えて、また、どの国、どの場所へ行っても、胸を張って本学の建学の精神にはこの2つの言葉が流れているということを宣言できることを誇りに感じております。

さて、それで少し具体的にになりますけれども、平成20年から「五つの力の目標」というものを、それから平成23年からは「三つの力の追加目標」ということで、現在「八つの力」を掲げております。

まだ半ばでございますけれども、最初にこの「募集ブランド力の向上」、「学力の向上」、「教育力の向上」、「人間性涵養力への注力」、それと「教員人材育成力への注力」、これによって事業計画もずっと言ってきたわけでありまして。やはり、1つの目標を立てても、本学ではやはり5年間、6年間はどうしても完全実現達成に向けてはかかるような6年制の大学のことでありますので、一気に改善が難しい面もございます。それに、大学院となりますとさらに4年があるわけですね。そして、本学は14の外国の大学と交流協定を結んでおりますけれども、学生の間から国際交流マインドといいますか、そちらのほうを増強していくことが、こういったときに大きな力になるのではないかと——特に研究において、あるいはそれらを終えてからの我々の力になるのではないかと——これを掲げているわけでありまして。

そこで、平成25年度からの事業計画をこの教学、大学院、教員人材というふうには、6つのパートに分けて、それぞれでやっていくわけでありまして。今までの達成状況も含めて、もう一度見てみたいと思います。（図4）

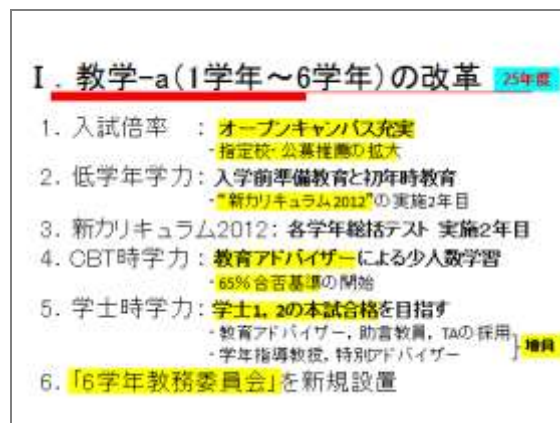
【図4】



まず、教学では、1学年から6学年に対して25年度の改革ということで、これから最も新しい部分であります。まず、入試倍率を増やさないと、アップしないといけないということで、これは文科省の評価では2.0以上ですね、実質、最終的な倍率が2倍以上にならないと、そこは全入と同じだから、定員割れと同じになるということの評価でありますので、そこを評価されます。それで我々の大学では、オープンキャンパスの充実を4年ほど前からずっとやって、これが大変人気を呼んでいるといえますか、中にはリピーターも多いということで、これによって受験生が、それと本学の長い歴史と伝統、あるいは同窓会の方の協力で、円満に今まで定員割れがなくて来られたということがあります。

それから、低学年の学力を入学前準備教育と初年次教育というふうに分けて、両方を実施しているということでありまして。（図5）

【図5】



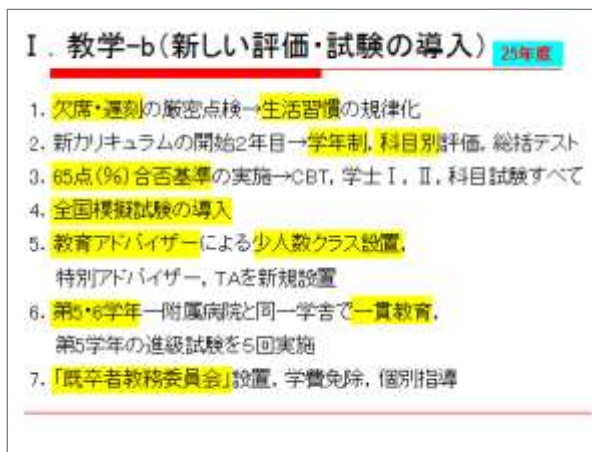
それから 2012 年、昨年から新カリキュラムがスタートしました。これによって相当学力が上がってくると思いますけれども、従来の単位制からゆとり教育を廃して、学年制に行くというのが大きな改革の趣旨であります。新カリキュラムの制度の実施、今年は 2 年目に入って行くわけでありませう。

それから、CBT 時の学力というのは、これは途中で 4 年生の終わりに全国規模で国公立全部合わせた第 1 番目の国家試験と言われるようなものでございませう。これを従来 60% の合否基準で病院生になれるかどうかということと判定していたのですけれども、本年から 65% に変えました。また、教育アドバイザーによって少しこの成績が低迷する人を逐一個人授業といひますか、少人数学習をするような形をとって学力を補っております。

それから、学士時の学力というのは学士試験というのは卒業試験の 1 と 2 と、ほとんど本試験、実際の国家試験に形式も問題数も合わせてやるものでございませう。これにも教育アドバイザー、助言教員、ティーチングアシスタント、それから学年指導教授、特別アドバイザーというふうに、これだけの職種の人がメンタルヘルスから学力の向上を目指して、これを大幅に増員いたしております。これらが特に 5 年、6 年の、できたら 6 年が一番望ましいのですが、5 年次から一環で卒業までの間、指導していくということで、最終的には国家試験の合格率に反映しようということでございませう。そのために、また 6 学年の教務部委員会というのを、全体の教務部委員会とは別に設置いたしまして、力を入れております。

教学の b としては、今までのことのさらに具体的なこと、新しいことがこの 6 項目ですけれども、新たに昨年補強いたしまして、こういうふうな弱点の部分をさらに補っております。(図 6)

【図 6】



それから、今年の 4 月から第 5、6 学年の天満橋の附属病院と連動し同一学舎で一貫教育をしようということで、100 周年記念館を利用いたしましてやろうと。そして、また第 5 学年の進級試験を 5 回やって、その平均を出して、それで 6 年生に行く。6 年生にするには 2 年がかりでやらないとなかなか成績が上がらないということが判明しましたので、そういうことにはいたしております。

それから、昨年国家試験の成績が特に既卒者の人たちが足を引っ張る形でありましたので、それらも一緒に教育しないといけないという事態になりましたので、従来残っております既卒者に対しましての特別な既卒者教務部委員会というのを設置しまして、教授諸侯がそれに選任になって鋭意当たっております。その人たちは特別聴講生というふうな学費を課しますと、どうしてもこちらへ通ってくれない、入学してくれない、あるいは個別指導に応じてくれないということから、これらを免除するような措置もしております。

過去 11 年間の推薦入試の志願者状況を今、調べてみますと、この後にさらに一般入試があるわけですが、本学では 28 名をずっと長い間定員としてとっていたのですけれども、推薦がこれだけ増えてきましたので、増やすほうに行っております。大体 10 名ぐらい増やして、35、6 名から 38 名ぐらいを毎年とるようになっております。その志願者がこのときは大分減っておりますけれども、昨年から今年にかけても、そんなに減っていないことを示しております。

これが、昨年非常に衝撃を受けました国家試験合格率の順位であります。相当目標設定して、かけ声を入れ始めたのがこの平成 19 年あたりからですが、それから徐々に上は上がっていったのですけれども、ここでもって現役ですら 64%という数値になってしまいました。これは下位から 2 番目ということで非常に悪い成績になったわけですね。相当いろんなところに根を張っていた、ゆとり教育の結果がそういうふうに出てきた、60%で卒業もすいすいできてきた時代。それは、60%をクリアしていても、国家試験は通らないレベルの問題があったということもありましたので、少し途中からで厳しかったのですけれども、65%に今年からなっておりますので、随分その分成績が向上していると思います。あと 25 日で第 106 回の国家試験があります。3 月 19 日に今年も発表があるわけでありますけれども、これは希望的観測も入れた予想でありますけれども、V字回復をしないといけない。それらがさらにずっと続くようにしないといけないというふうに考えて、逡巡をして、猛烈に今日も関係の先生方に時間外の教育をお願いしております。

【図 7】



本学にとって 10 個の課題がある中で、やっぱり最も重いのは、この国家試験の合格率、これは文科省から判定を受けるのに、合格率と各学年の進級率というのが、このごろまた報告しないといけなくなりましたので、その 2 つを向上させていけない限り、今の定員は守れない、入学させられないという感じに至っております。それも 3 年連続で、あるいは最低 2 年以上がコンスタントに全国平均を超えていないとい

けないということで数値目標まで出ております。

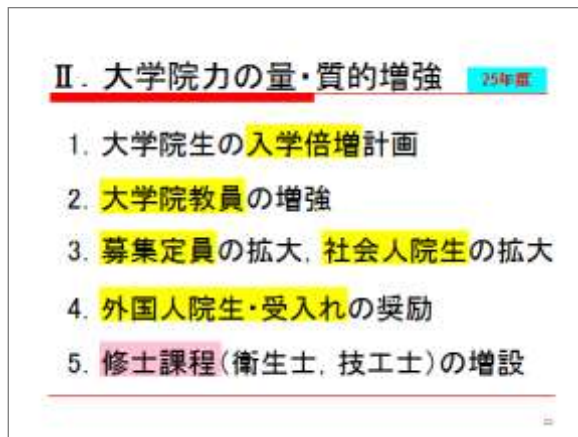
それから、もう 1 つはやはり大学の財務状況が大変苦しい状況に徐々になっております。特に、附属病院におきましてはいろんな役割をやっておりますので、それがトータルしますと、どうしても大きな赤字にならざるを得ない。しかし、このままでいくと、ここが非常に重くなって大学のほうから、財務のほうを調整できないという事態になってきそうなので、これを何とか改善していこうということですね。この 2 点を特別な重大な問題として位置づけております。(図 7)

そうして、これから財務とか合格率とかを押さえるようにして、いろんなところをアップして、全体のこの大学力を上げようということでございます。

この 5 年間で大分達成してきておりますので、それらの効果がだんだん外に顕在化してあらわれてくるのは、もう間もなくというふうに思っております。

次に、2 番目のこの大学院力の量的並びに質的増強ということで、これも今年から始めるものもありますけれども、5 つのことに分けております。(図 8)

【図 8】



まずは、大学院生の入学倍増計画というか、数の問題ですね。入学生を 30 人以上毎年呼ぼうということで大学院への進級を推奨しております。一時は非常に大学院生が多くなったときもあるのですけれども、最近では研修医制度がありますので、1 年を置いてからでない大学院に入れられないということですので、7 年間プラス 4 年ということで 11 年かかるという感じになるわけでありますけれども、これが非常に大きな

ろんなパワー、研究力をはじめ、パワーを大学に生み出しますので、やはり大学院の量的増強はどうしても必須のものとなってきております。

2 つ目は、大学院教員の増強ですね。やっぱり大学院生を集めるには、大学院教員の資格が大学教員よりも論文数とか研究力においてかなりハードルがありますので、そういう人材を任命するためにこの増強をしないといけないということになってきます。これを増強することにより、大学院生も増えてくる。

それから、3 つ目は募集定員の拡大ですね。社会人の大学院生をできれば増やしていきたい。これは、今後天満橋の 100 周年記念館の 2 階には社会人大学院生が増えても、講義がそこでできるようなものを想定した部屋をつくって設計してありますので、そういったことを活用すれば、これも可能性があるかなと思っております。

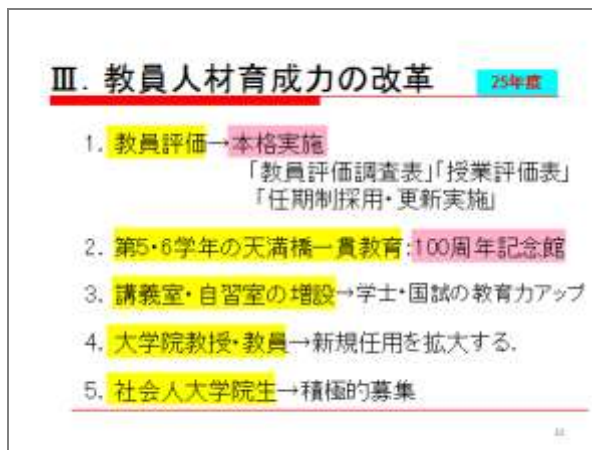
それから、外国人の大学院生の受け入れの奨励。これは既に始まって、それぞれ一定の成果を上げております。今後も続けてやらないといけない。

もう 1 つ、修士課程を新設、増設するというところで、これは特に専門学校の中の 1 つの計画の中で短大か 4 大をつくるか、あるいは大学院を充実して修士課程をつかって、そちらへ進んでもらって、将来指導者を養成していくという方向です。いろいろ理事会での委員会の検討も出まして、修士課程の方向のほうを希望者が多そうだということで、また別に短大化していくと、いろんな経費が増大いたしますので、こちらのほうを先にしよう。これはまだ未達成で、今後のできるだけ早い時期、今年中に達成してもらいたいと思っております。

次は教員人材ですけれども、教員評価は本学ではもう本格実施に至っておるわけでありまして。これは教員の評価表、あるいは授業評価表、そういった細かく分けたものを自己申告していただくものと、それから学生による授業評価を別につけるもの、そういうものをあわせて入力して全体に評価しているということでやります。それと、任期制の教員の採用ということで、既に 5 年たって更新している段階に入ってきております。この 2 つを本格実施することによって、教員の人材が随分レベルアップするものと思っております。

(図 9)

【図 9】



2 つ目は、この 100 周年記念館を使っての一貫教育をしようということ。これはもう 2 年前から、これを建設する前からこれが念願だったので、それが目前に来ておりますので、4 月から一斉にこれを活用して一貫教育へ入るということになります。

それから、これは病院のほうでの自習室ということで、病院のほうの強化として、講義室も両方使った 5 年、6 年の一貫教育を天満橋で行おうというものであります。そのほうが先生方も教えに行きやすいという面もありますので、臨床教育の場合はそのような形をとりたい。

それから、大学院教授とか教員の新規任用を拡大していく。これもそれぞれに大学院生がついてくるというふうに思っております。先ほど言った社会人大学院生も積極的にこれを増やしていこうということの方向でございます。

これを実際に行う、今までのような改革を行うために、いろんな諸規程を随分これまで改正、改定してまいりました。ほとんどがこの規程の改正が済んでおりまして、もう実施段階でいつでも任用できるという体制にあって、一部はそれに適用されて任用が行われております。

といいますのは、今後 10 年間に本学の教授が随分と欠員になるという時期が刻々近づいてまいりますので、相当教員の資格のある人を養成しておかないと困ることも起こるということで、例えばこの平成 27 年には 8 名も欠員になるということですね。それから、このように 6 年後にはさらに 15 名の欠員がこのような形で毎年のように起こってくるということござい

ますので、ここに1つの大きな節目があります。

これは、先ほど言いました大学院教授とか教員のレベル並びに資格を上げるために、増やすためにもそうではけれども、それだけ1つの充足論文数というのが増えるわけではけれども、少しずつ難易度が高くなっておるわけでございます。それに耐えられる人を早く養成しようということで、こういう階段に、それを充足した人はどんどんそれぞれのキャリアを達成している。

それから、附属病院の改革も早速理事会の小委員会で経営改善委員会を全体の財務改善委員会とは別に立ち上げてまして、今1カ月に一度ずつ検討しておるところでございます。大きな柱としては、少しでも医療収入を増やそう—それぞれの科で、それから患者数も増やそうという、それが大きな柱でありますね。早速これに向かって詰めを行っているのが、土曜日をこれから開院しようということで、それも全部を一度にやるのではまたいろんなところが回らなくなるので、労務の問題も含めて、円滑に、これをうまくクリアしないとイケないのですけれど、これは全国的に見ても、土曜日を開院しているところと比べると圧倒的に多くて、うちのように土曜日を完全に休みにしているところはほとんどないというような状態になっております。(図10)

【図10】

IV. 附属病院の改革 25年度

1. 医療収入と患者数の増加
2. 黒字期待の土曜日開院
3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨
4. 考慮の支出、経費の見直し
5. 各科ごとの収支改善

それから、いろいろな経費の問題もありますけど、この経費より先にこちらのほうを少しでも増収の方向を模索していくということで、最終的には各科ごとの収支改善をお願いしようという方向で進んでおるところでございます。

最後に、専門学校の改革でございます。(図11)

【図11】

V. 両専門学校の改革 25年度

1. 歯科技工士専門学校→募集力改善に全力
 - ・学校名称変更など
 - ・大学院修士課程へ接続
 - ・カリキュラムを卒業コースに
 - ・3年内の効果評価
2. 歯科衛生士専門学校→さらに入試倍率アップ
 - ・募集人員の拡大
 - ・大学院修士課程へ接続
 - ・関連資格の取得制度
 - ・3年ごとの効果評価

これも先ほど言いましたように、少しでも募集力を、定員割れを改善することが最も大きな問題であります。それから衛生士学校に関しましては、定員は満ちているのですけれども、さらに募集人員を拡大する方向に行けたら、さらに好ましい方向に行ける、ここからまた修士課程へ行けるような形で接続できたらというふうに思っております。

そのようにして全体のIからVに関しましては、いろんなところの改革が進みますと力が上がるわけでありましてけれども、もう1つ最後に特別重点計画がほぼこれは大きなものは昨年までに終えておりますけれども、少しこの星印の書いてあるところが今年の3月までに残っていたのをやり終えるということで、7本柱の2つが完成間近というところですね。これをもって全部7本ともが終わるということになります。

今、最も期待されておりますのはこの創立100周年記念館の完成であります。これで今までの計画のかなりの部分を改革できるというふうに思っております。竣工式を先日の理事会でもって平成25年3月21日の木曜日、午前10時からという日程も決められました。実際に使用するのは4月1日からでありますけれども、引き渡しは3月15日に可能だということで、現在の進捗は相当急ピッチで完成に向けて進んでおる次第でございます。

それで、結局これからの改革の方向、戦略でありますけれども、これは我々教員、経営者、経営側の理事

のほう、あるいは学生、それぞれについて共通したところがあるかとも思うのですけれども、まず最初入学した人に、このアンダーグラデュエートの学生、卒前の学生としての大学力を増強する。これは学力の増強であり、教員力、教育力、人間性涵養力、こういった本来の大学生としての力をもっとつけないといけないという点が大分分析によって、弱いところもわかってまいりましたので、これを急ピッチで—半分よりは進んでいるのですけれども、最後の仕上げを見てさらに規程、制度も含めて、まずこれを最初にターゲットに迎えます。

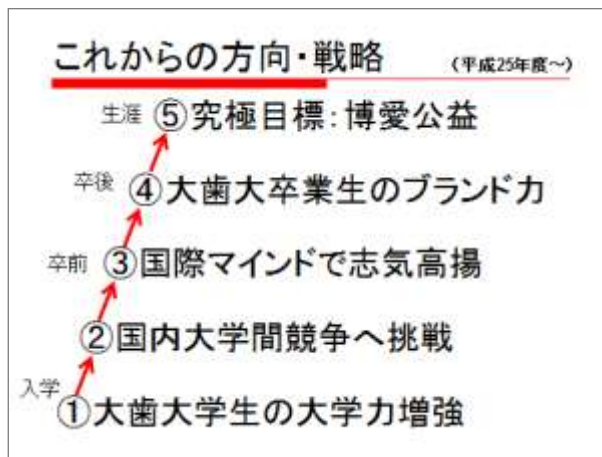
それから、同時にもう進みますけれども、その次に国内大学間競争への参入、挑戦ということであります。やはり私立歯科大学 17校は 17校の中で少しでも上位に行かないといけない。あるいは、29の国公立大の国内の全歯科大学の中で競争していかないと、それがアップになる。これらは次への受験する受験生の数にも影響するものですから、やはりこれを上位に向けてやらないといけないと思います。ただ伝統があるだけでは、これからは予想ができないということになっております。前日の新聞にも、これは歯学部の話ではないのですけれども、日本の私立大学の伝統のある大学の4割がちょっと苦境に立っているというふうなニュースがありましたけれども、そういうことを展開していかないと、なかなか財務問題も含めて円滑にいかない。

それから、同じこれは卒前というか、アンダーグラデュエートの段階で3年生、4年生、5年生ぐらいの間に国際マインドを高めていくことが、ひいては究極の目標とか、早く国家試験に通って参入しようと、出ようという意識をする、あるいはもっと世界で活躍しようという意識を高揚するにも、非常に効果があるということが今までの経験でもわかっておりますので、それも一緒に加えていく。これらは、文科相の評価でも非常に評価が高くなってまいりますので、一石二鳥、三鳥であります。

そして、この6年後、大歯大の卒業生のブランド力ということで、やはり昔にあったような、大歯大を卒業した人にはこういう非常に強いところがあると、社会へ出てから強いところがある。これは歯科医師会に行ったり、あるいは各研究のほうでもそうでしょうけれども、それら何か特徴をつけないと—何よりもそれ

ぞれの卒業生が自信を持って社会に入っていくと、そういうことですので、これは非常に重要だと思います。

【図 12】



究極目標はそれぞれ人によって違うのですが、本学には建学の精神で最も崇高な言葉が2つありますので、その方向に進むと、さらに社会全体からの評価も、各自の自信も高まるのではないかとということで、入学前のときから、ここをまず先に構築して目指すように、ただ単に国家試験を通るだけのために本学を受けるのだというような近視眼的なことでは士気が上がらない、ファイトがわからないという人もあると思いますので、もっと大きな先のほうも同時に教育していかないといけないかなと思っております。(図 12)

大体、こういう方向で改革をどんどん進めていって、結果はいろんな数値で、最近では文科省をはじめとして、すぐそれらを公開するぞという感じで言ってくるので、特に新聞には、あるいは文科省のホームページではどんどんガラス張りにさせられて、中の教育状況をオープンにしていけないといけない時代になっております。

ということでこの蛇の年、巳年を契機に、さらに夢を胸にという大目標、それから個々の目標を目指して勇往邁進するという先の目標をこのように打ち立てたいと思っております。

それでは、長々と貴重な時間をお借りいたしましたのですけれども、やはり教育ということになりますと、非常に幅広く、また効果があらわれてくるのも長いとい

う中であって、最近特に教員、職員の士気が——非常に一生懸命やっただけておりますので、私はこうい
うときこそ本当に希望、期待の光があるというふうな
気が、特に今年のお正月に臨んでいたしております。
この時期が一番バネになって、底力を生み出しやすい
ということです。それをほかの例でも、いろんなこと
にも共通しているようでありませうけれども、本学もそ
うあってほしいと思う次第でございます。

大変長くご清聴いただきまして、ありがとうございます。

〇〇〇

平成 24 年度 解剖体遺骨返還式

〇〇〇

平成 24 年度解剖体遺骨返還式が、去る 2 月 22 日
(金) 午後 2 時から楠葉学舎 5 号館 3 階大会議室にお
いて執り行われた。始めに、歯科医学教育のため、自
らの身体を提供された 28 の故人の御霊に対し、参列
者一同ご冥福を祈り黙祷を捧げた。続いて、川添理事
長・学長から故人とご遺族に感謝の言葉が述べられ、
参列いただいたご遺族お一人お一人にご遺骨を丁重に
返還された。最後に、解剖学講座諏訪文彦教授から謝
辞が述べられ、遺骨返還式は滞りなく終了した。



平成 24 年度 科学研究費補助金交付

平成 24 年度の科学研究費補助金は、新規申請 21 件が採択され、継続分 40 件とあわせて 61 件、総額 99,840,000 円（直接経費 76,800,000 円・間接経費 23,040,000 円）が交付されることとなりました。

平成 24 年度科学研究費助成事業—科研費— 採択者一覧

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	継続	22520035	櫻 則章	倫理学	わが国における歯科医療倫理学の構築のための基盤的研究	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	22592105	澤井 宏文	内科学	歯周病における細胞内グルコシルコリド活性化酵素11β-HSD1の役割の解明	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	22592135	山本 一世	歯科保存学	エビデンスに基づいた臨床研究を行うための口腔内画像撮影・記録装置の開発について	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	22592174	橋本 典也	歯科理工学	iPS細胞を用いた顎骨再生の臨床基盤技術の開発	900,000 270,000
基盤研究(C)	継続	22592175	小正 裕	高齢者歯科学	新製法によるオールセラミッククラウンの開発	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	22592202	今井 弘一	歯科理工学	iPS/ES細胞による歯科用モノマーの発生毒性スクリーニング試験	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	22592270	徳永 敦	歯科麻酔学	三叉神経節におけるグリアを介した情報伝達システムの解析	700,000 210,000
基盤研究(C)	継続	22592271	百田 義弘	歯科麻酔学	局所脳虚血モデルを用いたリドカイン脳保護作用の解明	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	22592306	松本 尚之	歯科矯正学	歯の移動時における歯槽骨再生を目的とした骨補填材の開発	600,000 180,000
基盤研究(C)	継続	22592323	堂前 尚親	内科学	歯周病の動脈硬化性病変形成における役割の解明	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	22592324	上田 雅俊	歯周病学	新規合成ペプチドを用いた歯槽骨再生誘導治療戦略の構築	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	22592351	上根 昌子	口腔衛生学	学童期口腔健康レベル評価法の確立に関する研究	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	23590727	前田 光代	解剖学	神経因性疼痛におけるミクログリアによる脱髄制御のメカニズム	800,000 240,000
基盤研究(C)	継続	23592724	福島 久典	細菌学	ストレプトコッカス・インターメディウスのバイオフィルム関連遺伝子の検索	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	23592755	池尾 陸	生化学	象牙質・歯髄複合体由来MMP1によるう蝕進展機構の解明—新規病態モデルへの展開—	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	23592786	合田 征司	生化学	慢性歯周炎進展機序におけるT細胞浸潤の解明—骨免疫の解明—	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	23592819	吉川 一志	歯科保存学	臨床におけるEr:YAGレーザーによる選択的う蝕除去法の確立	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	23592820	好川 正孝	口腔治療学	アルギン酸ハイブリッド担体と口腔粘膜および血液由来幹細胞による歯髄・象牙質再生	1,000,000 300,000
基盤研究(C)	継続	23592874	田中 昌博	有歯補綴咬合学	AR(拡張現実)を用いた歯科ハンドスキルトレーニング支援システムの構築	500,000 150,000
基盤研究(C)	継続	23592876	川本 章代	高齢者歯科学	高齢者に優しい、高分子多糖の歯周組織への有用性	1,000,000 300,000

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	継続	23592908	秋山 真理	歯科理工学	スキヤフォールドフリーによる組織再生のための骨膜細胞ニッチの制御	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	23592909	西川 哲成	口腔病理学	補綴前処置におけるサンゴブロックを応用した歯槽骨および顎骨の増生	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	継続	23593008	宮前 雅見	内科学	揮発性麻酔薬による虚血心筋保護効果におけるオートファジーの役割の解明	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	継続	23593113	長野 豊	内科学	歯周状態を反映するバイオマーカーの確立	1,300,000 390,000
挑戦的 萌芽研究	継続	23659864	桧枝 洋記	生物学	唾液腺細胞の分化転換と再生に必要な転写因子の同定	1,100,000 330,000
若手研究(B)	継続	22791914	奥田 恵司	欠損歯列補綴咬合学	咀嚼能力の回復が学習・記憶能に及ぼす影響	1,000,000 300,000
若手研究(B)	継続	23792118	南部 隆之	細菌学	バイオフィルム形成能を高度に維持するアクチノマイセス菌株のゲノム解読と変異解析	800,000 240,000
若手研究(B)	継続	23792136	乾 千珠子	口腔解剖学	味覚の受容・認知機構における加齢の影響	1,100,000 330,000
若手研究(B)	継続	23792197	竹内 拱	歯科保存学	レーザーによる歯髄細胞分化の解明	900,000 270,000
若手研究(B)	継続	23792262	田中 栄士	高齢者歯科学	嚥下円滑性に基づいた舌接触補助床の形態評価に関する研究	1,400,000 420,000
若手研究(B)	継続	23792272	本田 義知	中歯研	遺伝的アルゴリズムを用いたBMP-2共活性無機元素複合薬の開発と評価	1,800,000 540,000
若手研究(B)	継続	23792301	岡田 正弘	歯科理工学	ソフトプロセスによる低結晶アパタイト透明体の構造設計と歯科材料としての機能評価	900,000 270,000
若手研究(B)	継続	23792302	牧田 佳真	化学	ヘミクリプトファンによるフッ素徐放性の高効率化とコンポジットレジンへの応用	800,000 240,000
若手研究(B)	継続	23792303	西田 尚敬	歯科保存学	低次元酸化物ナノ構造体の高次構造設計によるナノバイオマテリアルの開発	2,100,000 630,000
若手研究(B)	継続	23792395	金田 一弘	歯科麻酔学	軽度アルコール摂取による虚血心筋保護効果のシグナル伝達とアポトーシスの関与の解明	1,600,000 480,000
若手研究(B)	継続	23792396	稲村 吉高	歯科麻酔学	心筋虚血再灌流障害による細胞死のメカニズムにおける揮発性麻酔薬の効用の解明	1,300,000 390,000
若手研究(B)	継続	23792397	安東 佳代子	歯科麻酔学	脱分化脂肪細胞を用いたハイブリッド型人工神経による末梢神経再生	900,000 270,000
若手研究(B)	継続	23792459	原田 京子	小児歯科学	乳歯歯髄由来細胞における炎症応答抑制メカニズムの解析	1,500,000 450,000
若手研究(B)	継続	23792530	土居 貴士	口腔衛生学	Enamel Erosionの早期検出・定量法構築のための基礎的研究	800,000 240,000
若手研究(B)	継続	23792531	古川 美弘	生化学	酸化ストレスが歯周病に及ぼすメカニズムの解明—転写因子FoxO1の重要性	1,300,000 390,000
基盤研究(C)	新規	24560054	緒方 智壽子	歯周病学	複眼撮影システムを用いた歯周治療への応用	2,400,000 720,000

ODU NEWS No.167

研究種目	継続 新規	課題番号	研究代表者 氏名	所属	研究課題名	助成額(円) 直接経費/ 間接経費
基盤研究(C)	新規	24592790	真下 千穂	細菌学	歯垢形成過程における初期付着菌アクチノマイセス属の役割とその分子メカニズムの解明	1,400,000 420,000
基盤研究(C)	新規	24592853	井上 博	生理学	NK細胞活性化におけるIL-17の役割-炎症の発症機序解明のための解析-	1,500,000 450,000
基盤研究(C)	新規	24592889	林 宏行	口腔治療学	臨床応用に向けた象牙質再生のための幹細胞分化促進と歯髄再生法の確立	1,700,000 510,000
基盤研究(C)	新規	24592942	楠本 哲次	有歯補綴咬合学	チタン合金のナノ構造制御によるインプラント周囲骨形成能の向上	1,500,000 450,000
基盤研究(C)	新規	24592943	前田 照太	臨床研究教育科	日常生活におけるストレスは有床義歯による咬合支持回復の効果に影響するか?	1,600,000 480,000
基盤研究(C)	新規	24592944	田中 順子	有歯補綴咬合学	軽度の要介護高齢者における予防重視型の栄養改善アクションプランの確立	1,100,000 330,000
基盤研究(C)	新規	24592975	有田 憲司	小児歯科学	新規アパタイトグラスアイオノマーセメントの物理化学的特性に関する研究	2,000,000 600,000
基盤研究(C)	新規	24592976	隈部 俊二	口腔解剖学	ヒト間葉系幹細胞を用いた効率的な歯槽骨再生療法の開発	1,200,000 360,000
基盤研究(C)	新規	24593020	野崎 中成	薬理学	歯髄由来細胞の多能性を誘導するリプログラミング因子に関する基礎的研究	2,000,000 600,000
基盤研究(C)	新規	24593138	田中 昭男	口腔病理学	歯根膜幹細胞に対する新規骨形成剤ペプチドの効果	2,200,000 660,000
基盤研究(C)	新規	24593179	王 宝禮	歯科医学教育開発室	オンジェルによる歯周予防・治療薬の開発	1,100,000 330,000
若手研究(B)	新規	24740210	一宮 正義	物理学	超高品質半導体薄膜中の光・励起子間長距離強結合がもたらす非線形光学応答の増強	2,300,000 690,000
若手研究(B)	新規	24791974	上田 甲寅	口腔解剖学	カゼイン摂取制限による味覚受容機構の変貌	2,000,000 600,000
若手研究(B)	新規	24791975	山根 一芳	細菌学	バイオフィルム形成ロシア・ミューシラジナーサの遺伝子解析	2,100,000 630,000
若手研究(B)	新規	24791990	諏訪部 武	生理学	延髄味覚神経回路の成熟における味覚性入力役割の解析	1,700,000 510,000
若手研究(B)	新規	24792123	大郷 友規	高齢者歯科学	炭酸ガスレーザー照射によるソケットブリザベーション効果	1,500,000 450,000
若手研究(B)	新規	24792162	上村 直也	口腔インプラント科	インプラント支持型新規スキャホールドの開発	1,600,000 480,000
若手研究(B)	新規	24792263	岸本 直隆	歯科麻酔学	臨床応用を目指したヒト脱分化脂肪細胞の骨組織再生における基礎的研究	1,500,000 450,000
若手研究(B)	新規	24792345	田口 洋一郎	歯周病学	ナノ構造制御によるインプラント周囲炎の感染予防戦略の構築	2,000,000 600,000
研究活動 スタート支援	新規	24890273	渋谷 友美	高齢者歯科学	嚥下時の口唇圧と咽頭圧の関係	1,100,000 330,000
合計 61件(内 継続40件)						76,800,000 23,040,000

第 106 回 歯科医師国家試験結果

第 106 回歯科医師国家試験の合格発表が 3 月 19 日にあり、本学は新卒者が 105 名受験して 78 名が合格し、合格率は 74.3%であった。既卒者を含めた全体の合格率は 63.2%であった。

全国の合格者数は 2,366 人であり、合格率は 71.2%で昨年とほぼ同率であった。

平成 25 年度 事業計画

はじめに

本学は一昨年の平成 23 年、大学の歴史上、大きな節目となる創立 100 周年を迎え、創立者・藤原市太郎の建学の精神「博愛公益」の原点に立ち帰り、これからの 100 年に向かって新たな一歩を踏み出すことを誓った。

そして昨年、平成 24 年は本学の教育研究の重点目標である「五つの力の目標」及び「三つの力の追加目標」達成を目指し継続的に諸改革を進めるとともに、創立 100 周年記念館の竣工、大学 100 年史・大学院 50 年史の刊行を果し創立 100 周年記念事業の完成を見た。また、「第 22 回日本歯科医学会総会」主幹校としての役目を無事に務め、大阪から全国に向け歯科界の情報発信に尽力した。

この 2 年にわたる大事業を経て、平成 25 年度は、新たなことへの挑戦の年と位置づけ着実に前進していきたい。100 周年記念館の完成により、今年度から愈々天満橋学舎において、附属病院と一体で 5・6 年生に一貫教育を行うことが可能となる。これを契機に、学力、教育力のより一層の向上に努め、本学の最重要課題である歯科医師国家試験合格率アップへとつなげていきたい。

今一つ、本学にとって国家試験合格率と並ぶ最重要課題が、附属病院の財務改善である。大学の財務状況の悪化は年々深刻さを増しつつあり、病院の収支改善は今や喫緊の要事となっている。この改善策については、理事会の下に「附属病院経営改善委員会」を設置

し、昨年 6 月から毎月検討を重ねる中、その第一弾として土曜日開院を実施することを決めた。開始時期は、平成 25 年 5 月中旬を予定しており、増収と患者数の増加を目指し新たな挑戦が始まる。

長引く経済不況や歯科医師の需給問題、入学志願者数の減少さらには入学定員削減要請など私立歯科大学を取り巻く状況は厳しいと云われて久しい。遺憾ではあるが本学も例外ではない。しかしながら、逆風の最中にあっても屈せず、逆境のときこそ生まれる底力を信じ、教職員が一枚岩となってこの難局を乗り越えていきたい。

平成 25 年、大阪歯科大学は夢を胸に目標を目指し勇往邁進する。

平成 25 年度事業計画

- I. 教学（学部教育）の改革
- II. 大学院力の量・質的増強
- III. 教員人材育成力の改革
- IV. 附属病院の改革
- V. 両専門学校の改革

I. 教学— a（1 学年～6 学年）の改革

創立者の言葉「博愛公益」を基本にした建学の精神「歯科医学・医療に関する専門知識、技術の習得と共に、思いやりの心を涵養し、自らの選んだ道に深い使命感をもって、社会に対する奉仕的人生観を体得して、『博愛』と『公益』に努める」を歯学教育の原点とする。入学時の早い段階で、「大阪歯科大学の歩み」等の教材を用いて本学の歴史及び歯科教育者たちが歩んできた道を学ばせ、歯科医師になる目的を明確にして誇りと責任感を養う。その上で「五つの力の目標」に基づき、具体的な歯科教育を進めていく。創立 100 周年記念館の完成により、一層充実した教育環境の中で不断の教育改革を実行していく。

1. 入試倍率

歯科大学への志願者が減少している状況を踏まえ、本学の認知度・好感度を向上させる努力が必要であり、入試倍率のアップに努めたい。そのためには、オープンキャンパスの充実とともに、受験生に選ばれる大学となるべく入試広報の強化が重要である。また、指定校・公募推薦枠を拡大さ

せてきたが、当面は 40 名ほどで維持していく。本学のアドミッション・ポリシーに適合する優れた入学者を確保し、国試合格率の向上につなげたい。

2. 低学年学力

入学を認めた以上、大学は学生を一人前の歯科医師として社会に送り出す責任を持つ。入学時の学力の個人差を埋めるため、とくに推薦入学者及び編入学者には入学前に準備教育を施し、初年次教育に注力する。根気よく大学での学習スタイルを身につけさせ、6 年間支障なく勉学が続けられるよう取り組む。

3. 新カリキュラム 2012

平成 24 年度第 1 学年から導入された新カリキュラム 2012 は、単位制のゆとり教育を廃し学年制への移行、科目別評価や各学年総括テストの実施などが特徴であり、今年度は開始 2 年目を迎える。

4. CBT 時学力

全国共通共用試験である CBT は臨床に入る前の第 1 回目の国家試験といえる。試験結果は学校単位で評価されるため、CBT に 1 回で合格できる学力を 4 年間で養成し、最終的な歯科医師国家試験につなげていく。また、合格基準を 70% とし、成績が低迷する学生に対しては、教育アドバイザーによる少人数学習で学力を補う。

5. 学士時学力

6. 6 学年教務部委員会を新規設置

学士試験 1・2 をそれぞれ 1 回でパスし、その上で歯科医師国家試験に臨めるよう 5、6 年生を天満橋学舎で一貫教育することを基本に学力の向上を図る。また、6 学年専門の教務部委員会を別途設置し、教育アドバイザー・学年指導教授・助言教員・特別アドバイザー・ティーチングアシスタントと共に総動員態勢で学習指導に当たる。

I. 教学ーb (新しい評価・試験の導入)

上記の教学改革をさらに補強するため、昨年度から具体的に以下の項目に取り組み、弱点の強化に努めている。これらを今年度も継続して行っていく。

1. 欠席・遅刻の厳密点検

欠席・遅刻の常習が学業成績の低下にもつながるため、こうした点検を厳格に行い、優れた医療

人の基本となる正しい生活習慣を学生一人ひとりが身につけられるようにする。

2. 新カリキュラムの開始 2 年目

3. 70 点 (%) 合否基準の実施

第 105 回歯科医師国家試験の成績低迷を踏まえ、CBT は 65% から 70%、学士試験 1 及び科目試験は 60% から 65% に、学士試験 2 は 70% に合格基準を引き上げた。

4. 全国模擬試験の導入

国家試験対策の一環として第 6 学年に本学指定の模擬試験を受験させることとした。

5. 教育アドバイザーによる少人数クラス設置、特別アドバイザー、TA を新規設置

6. 第 5・6 学年—附属病院と同一学舎で一貫教育、第 5 学年の進級試験を 5 回実施

7. 「既卒者教務部委員会」設置、学費免除、個別指導

既卒者の国家試験対策にも力を入れるべく新たに委員会を設置し、既卒者に対して学費免除で個別指導する態勢を整えた。

II. 大学院力の量・質的増強

平成 23 年に「三つの力の追加目標」を掲げ、「大学院力の増強」と「研究力の向上」を目標とした。大学院を魅力あるものにし、入学希望者を増大させることが研究の活性化につながる。一昨年来中国からの留学生が大学院に入学し、明るい兆しが見えてきた。さらにこの傾向を広げ、大学院の活性化とともに国際的な研究の拡大へとつなげていくことを期待している。

1. 大学院生の入学倍増計画

大学院力増強のためにはまず、毎年安定した入学定員の充足が欠かせない。そのため、教育研究者としての資質をもつ学部生に大学院進学を推奨する、大学院准教授による院生の募集を認める、平成 25 年度入試二次募集から社会的需要の高い口腔インプラント学を専攻科目に追加するなど、入学生を増やす取組みを行っている。また、今年度は入学倍増計画の一環として、従来院生の在籍に偏りが目立った歯科基礎系・歯科臨床系の専攻を一本化するため、文部科学省の認可申請準備を進める。

2. 大学院教員の増強

大学院生を増加させ、研究力を向上させるためにはその指導態勢も充実させなければならない。昨年度の規程改正に伴い、講座外大学教員の大学院教員への任用が可能となったことから、大学院教員の増強に一層努め、指導環境を整えていく。

3. 募集定員の拡大、社会人院生の拡大

大学院募集定員の増加及び社会人入学制度について具体的に検討する。

4. 外国人院生・受入れの奨励

外国人留学生受入れ態勢をさらに充実させていく。

5. 修士課程（衛生士、技工士）の増設

今年度内を目標に修士課程を増設すべく、引き続き検討を進める。

Ⅲ. 教員人材育成力の改革

「五つの力の目標」の一つ、「教員人材育成力への注力」として、これまで①教員職階ごとの任用基準の明確化、②（一般教育系、基礎系、臨床系、病院）教員資格の一本化、③教育研究に優れた教員の専任教授任用（講座・教室外）、④海外留学経験を有する大学院修了者の助教特別採用、⑤教員評価や学生による授業評価の実施等、諸規程を整備し改革を進めてきた。

ただ、今後10年間に専任教授を含む24名もの教授が定年退職を迎え欠員が生じることになるため、諸規程の実効性を高め弾力的に運用するとともに、次の取組みを行う。

1. 教員評価

教員評価については平成21年度に導入以来、既に本格実施されているが、今年度から「教員評価実施規程」を定め、各教員が教育、研究、臨床活動のうち自らのより得意分野に注力し、大学運営に資することを評価する方向へと展開している。

また、昨年度から順次任期制教員の更新時期を迎えており、基準の見直し等により再任用の審査は慎重に行われている。両者を軸に教員力の底上げを図っていく。

2. 第5・6学年の天満橋一貫教育

3. 講義室・自習室の増設

100周年記念館の完成により講義室と自習室が

増設され、平成25年度から天満橋学舎において、第5・6学年の一貫教育を始めることが可能となる。学生は勉強に集中することができ、臨床系教員は楠葉・天満橋間を往復することが少なくなるため、学士試験及び国家試験に向け存分に教育力を発揮することができる。

4. 大学院教授・教員

従来、大学院教員の任用は大学講座教員のみに限られていたが、昨年9月の規程改正により、講座外の大学教員も基準を満たせば大学院教員への道が開かれることとなった。新規程に基づき、今年度は大学院教授・教員の新規任用を拡大していく。

5. 社会人大大学院生

社会人大大学院生の受入れ態勢をできるだけ早期に整えた上で積極的に募集し、将来の研究者・教育者としての門戸を広げる。

Ⅳ. 附属病院の改革

附属病院の改革については、早くから収支改善による健全経営という基本戦略を打ち立て、様々な提案がなされてきたが、有効な改善策を実行するまでには至らなかった。現状のままでは大学全体の収支が今後5年間で急速に悪化するとの見通しから、病院の財務改善を喫緊の最重要課題と位置づけ本腰を入れてこれに取り組むべく、昨年度理事会の下に「附属病院経営改善委員会」を立ち上げ、毎月検討を重ねているところである。平成25年度も引き続き同委員会において改善策を企画立案し、改革を主導していく。

1. 医療収入と患者数の増加

2. 黒字期待の土曜日開院

まず、医療収入と患者数の増加を病院改革の大きな柱とし、その具体策として平成25年度から、矯正歯科及び小児歯科の2科を中心に土曜日に開院することを決めた。開始時期は、5月中旬を目標に鋭意準備を進める。

3. 病院運営貢献者への顕彰・報奨

収入面や患者数増の面で、病院の運営に貢献している教員等を定期的に顕彰、報奨していく。

4. B/C考慮の支出、経費の見直し

費用対効果の観点から支出、経費の無駄をなくすべく期間を定めて見直しを行う。

5. 各科ごとの収支改善

診療科ごとの収支、患者数の推移も丹念に追いながら各科の当事者意識を高め、収支改善につなげていく。

V. 両専門学校の改革

両専門学校の改革については、理事会の下に「専門学校の大学・短大化に関する検討委員会」を設置し、大学を含めた総合的な歯科教育機関という枠組みの中で検討しているが、将来的には両専門学校を大学院修士課程へ接続する方向で体制を整備していく。また、今後は3年ごとに改善状況を評価する。

1. 歯科技工士専門学校

学生数が減少傾向にあり、平成24年度に入学定員を削減したが、定員割れは依然として解消されていない。卒業ニーズを踏まえたカリキュラムへの見直し等を含め、まずは募集力改善に全力を挙げて取り組む。

2. 歯科衛生士専門学校

3年制移行後近年は順調に定員が充足しているが、さらに入試倍率をアップさせ、募集人員を拡大する方向へ進めていく。また、大学院修士課程への進学の方筋を早期に具体化していきたい。

薬剤師の野木さん等 (社)大阪府病院協会 第37回病院職員永年勤続表彰

平成24年12月19日(水)午後1時から大阪府病院年金会館 地階 コンベンションルームにおいて執り行われた表彰式において、本学附属病院勤務の職員2名(病院庶務課 杉浦 雅之、薬剤科 野木 弥栄)が表彰を受けた。大阪府病院協会では、同一病院において永年にわたり(20年以上)医療業務に従事し、病院の発展に不断の努力を払い、協会として表彰に値すると判断される病院職員に対し永年勤続表彰を行っている。

沖縄県歯科巡回診療に従事して 欠損歯列補綴咬合学講座大学院講師(非常勤) 奥田恵司

2012年5月21日、日本の多くの人々が空を仰いでいた日。僕自身も人生初の金環日食を目に焼き付けて大阪から沖縄県渡名喜島へ旅立った。今回の巡回診療の話を教授より頂いた時、名前も聞いたこともない離島に行ってみたいという冒険心は芽生えたものの、一ヶ月間全く知らない土地での診療に不安もあり、一度はお断りした。しかし、このとき大学を退職することが決まっており、今までの歯科医師人生を見直すいい機会になるかもしれないという思いから、渡名喜村行きを決めた。

渡名喜島は沖縄本島的那覇より北西58kmにあり、北の栗国島、南の慶良間諸島、西の久米島を結んだ三角形のほぼ中心に位置する非常に神秘的な島である。また渡名喜村は沖縄県で最も人口の少ない村で220世帯400人程が暮らしており、古くは戸無島と称されていたという名の通り、まるで村が一つの大家族の様な島である。渡名喜島への船便は那覇の泊港から一日一便しかなく1泊したのち2時間以上かけて渡名喜島へ入港した。そのときの港の海の青さは、まさにコバルトブルーで一番気持ちが高揚した瞬間であり、いまでもその青さを鮮明に思い出す。

渡名喜島に着くとまず村長にあいさつをしてから、診療所の設置の手伝いへ向かった。設備等に関しては想像より非常に充実しており、また長年色々な大学の先生が診療されてきたこともあり器具の量の多さにも驚かされた。そのため診療自体は思っていた以上の治療を行うことができた。ところが、離島という特殊な環境のため、実際に診療が始まると事前に注文していた物品がなかったり、診療に必要な材料がすぐに足りなくなったり、物品等が届くのが非常に遅かった。またチェアーもかなり限界がきており、一台は常に水が漏れている状態が続いていたため、診療に支障をきたす場面もあった。また4畳半の民宿ではクーラーをつけるのに毎回100円が必要で、寝ていると変な虫にさされて体中かゆくなったり、ゴキブリに毎日のように出会ったり、ちょうど梅雨時期で一週間以上長雨が続いたときには心にも雨が降っていたように思う。

しかしながら晴れた時の海の色と満天の星空は最高

で、きれいな泣き声の鳥や色とりどりの魚、ウミガメにも出会うことができた。また最初はなかなか打ち解けられなかった島の人々からも、最後には同じ家族のように受け入れてもらえ、夜の飲み会に誘ってもらったり、一緒に釣りをしたり、お勧めのダイビングスポットにも連れて行ってもらった。また年一回行われる伝統的な海神祭というお祭りで行われるハーリー競漕の練習にも参加させてもらえ、島民と一緒にハーリーを漕いだときはぼくもこの島の住人になれたような気がした。

今回沖縄県歯科巡回診療に従事して多くの大自然に触れ自分の人生を見つめなおすいい機会になった。さらにあたたかい島民の心に触れて、歯科診療に限らずこれから出会う多くの人々と心を通わす大切さを島の人から教えてもらえたように思う。



世界選手権（トライアスロン）に参加して
教育情報センター事務室 三木 慶一

昨年9月ラスベガスで開催された*IRONMAN 70.3 世界選手権に出場して来ました。もちろん世界選手権は初めての経験です。愛知県常滑市で開催されたIRONMAN 70.3セントレア常滑ジャパン（世界各地で開催される予選会のひとつ）で、信じられないことにアメリカのラスベガスで開催されるIRONMAN 70.3 世界選手権のスロットが獲得できたのです。



セントレア常滑ジャパン大会のスタート時は、台風の影響で風が強く、沖合は潮の流れが速くうねりもあることからスイムが1.2kmに短縮されたことが、泳ぎの苦手な私にとっては幸運でした。前日のバイク組み立て時に、強風でバイクを転倒させ、変速機が壊れるというアクシデントがあり、一時は出場もあきらめようかと思うほどの不利な条件の中で、最後まであきらめずに頑張った甲斐がありました。それにしても参加選手1,000余名から25名（プロ3名を含む、男女5歳刻みの上位入賞者各1名）に与えられる出場権を獲得できたことは、奇跡というほかありません。

さて、ラスベガスですが、ご存知のように砂漠の町です。どこで泳ぐのかと思いきや、ラスベガス郊外のリゾート地にあるラスベガス湖というお世辞にもきれいといえない人口湖がスイム会場になっています。バイクコースは、砂漠の真ん中を突っ切るアップダウンの連続するハイウェイを往復して、市街地に戻ってくるタフなコース設定で、ランコースも緩やかながらアップダウンが連続する住宅街（ヘンダーソン）を3周回します。もちろんバイクコースにしろ、ランコースにしろ、日陰などはまったくない酷暑の中、まるでオープンの中でレースをしているようでした。

まだ薄暗い6:30に男子プロ、6:35に女子プロがスタート。その後5分おきにエイジの高齢者グループ（全19ウエーブ）から順次スタートです。私は6:45の号砲とともにスタートをきる。スタート直後は、過呼吸でパニックになることもあるので、今回はバトルに巻き込まれないようにアウトコースからゆっくりスタートしました。水は生暖かく濁っていて、入水した自分の手先も見えません。5分も泳ぐと呼吸も落ち着き、蛇行しながらも同じペースの選手を探してついて行くが、15分も経たないうちに後続の選手に次々パスされる。ここは焦る気持ちを抑えてとにかくマイペースを心掛ける。そんな私でも先にスタートした数人の選手をパスすることができ、まずまずの滑り出しであった。

バイクへのトランジットを早々に済ませてバイクコースへ。いきなり3キロ程の上りだが、ここは焦らずに心拍数をあげないようペースを保つことに努める。しばらくするとよいよ砂漠の中のハイウェイを35キロ先の折り返しに向かう。大きなうねりの中のアップダウンは、まさにハリウッド映画のシーンそのもの

で、同じようなただ茶色の世界がどこまでも広がっている。ハイウェイのはるか先には、先行する選手達が等間隔（ドラフティングは違反行為）で連なって走っている姿が見える。後からスタートした若い男子選手はもちろんのこと、女子選手にもどんどんパスされ、ついて行くのもままならず歯がゆいばかりである。さすが選抜されたエイジグループ達の走りにレベルの違いを感じずにはいられない。それでもペースを維持し頑張るが、残り 20 キロを切ったあたりから、突然足が動かなくなってきた。まるでブレーキをかけながら走っている感覚に襲われる。ペースを抑えていたつもりでもオーバーペースだったのか？それとも脱水症状の前兆なのか？途中チェーンが外れるトラブルにもあいながら、想定していたタイムより 20 分オーバーしてのバイクゴールであった。

ランシューズに履き替え走り出すが、バイクで想像以上に足を使った(?) のが影響してか、大腿部に痙攣がおき一歩ごとに痛みがはしる。長い競技生活の中で、初めて経験する痛みだが、ここは我慢してペースを落として走るしかない。そうこうしている内に今度は腹痛が襲ってくる。脱水を警戒しエイドステーションで提供される慣れない水や氷、スポーツドリンクなどをがむしゃらに口にしたりしたつげが出たようだ。あわててトイレを探し駆け込む。又々5分のタイムロスをしてしまうが、足の痛みは何故か緩和している。レース後の話では、ランニング時の気温は 42 度を超えていたとのこと、仮にも世界選手権で多くの選手が歩いていたことにもうなずける。最後まで走りきれただけでも上出来である。

初挑戦のアイアンマンチャンピオンシップは、終わってみれば6時間23分41秒でのゴール。エイジグループ(60~64歳)40名中20位という結果に終わった。悔いは残るがこれが今の実力なのだ。確かに時差で体調が万全ではなかったとはいえ、条件は皆同じ。やはり準備不足であったことは否めず、楽しめればという甘い考えでは、すでにスタートラインに立った時に結果は出ていたようだ。

ちなみに、今大会の最高齢者は82歳のアメリカ人男性(女性は72歳)で、アワードパーティでは、優勝した選手よりもひときわ声援が大きかった。残念だったのは、ランス・アームストロング(ツール・ド・フランス7連覇で知られるが、プロサイクリストの前は

トライアスリート)が、ドーピング疑惑の渦中にあり出場が叶わず、この目で彼の走りが見れなかったのが心残りであった。

興味本位で始めたトライアスロンが、こんなにも人生を楽しくしてくれるとは思ってもいなかった。何よりも素晴らしい仲間達に出会えたことがうれしい。また、不思議なことに年齢を重ねることすらも楽しみであることなど昔では考えられなかっただろう。今では趣味を超えてライフワークになっている。苦しい時も、辛い時も、肉体的にも、精神的にも何故か前向きになれるのもトライアスロンという競技に出会えたおかげだと思っている。「完走者、すべてが勝者。人との争いでなく、自分との戦い。」目標を設定して、計画を立てトレーニングを積みレースに臨む。トライアスロンにまぐれはなく、それまで準備してきたこと以上のことは望めないし、自ら持つ可能性へのチャレンジでもある。プロセスはどこか仕事と似ていて、私自身、仕事面でも大いにプラスになっていて、継続することの大切さも身をもって実感している。これからも可能な限り続けていきたいと思っている。

さて、そろそろ今シーズンのレースプランを立てなくては！

* Swim 1.2Mile(1.9km) + Bike 56 Mile (90.1km) + Run 13.1Mile (21.1km) のトライアスロン競技。

世界各地で開催される予選会の上位入賞者に、ラスベガスで開催されるチャンピオンシップへの出場権利が与えられる。

寄 贈

下記の寄贈を受けましたので報告します。寄贈いただいた各位に心より感謝いたします。

- ・大阪歯科大学第9回卒業生 富永 才助
足踏みエンジン他古歯科機材4点(計5点)
平成24年8月20日寄贈
- ・大阪歯科大学共済会 理事長 川添 堯彬
創立100周年記念館建設費として300,000,000円
平成24年8月31日寄贈

・大阪歯科大学岡山県同窓会
 創立 80 周年を記念して備前焼壺 (横山 直樹氏 作)
 平成 24 年 12 月 2 日寄贈

・大阪歯科大学第 61 回卒業生
 卒業を記念して創立 100 周年記念館 1 階ホール、4
 階大講義室前 給茶機 2 台
 平成 25 年 3 月 8 日寄贈

人 事

教員採用

口腔病理学講座 助教 岡村 友玄
 口腔衛生学講座 助教 神 光一郎
 以上 H. 24. 10. 1付

昇 任

有歯補綴咬合学講座 准教授 田中 順子
 歯周病学講座 講師 田口洋一郎
 内科学講座 講師 澤井 宏文
 以上 H. 24. 10. 1付

特別昇任

薬理学講座 教授 篠原 光子
 口腔治療学講座 教授 馬場 忠彦
 小児歯科学講座 教授 嘉藤 幹夫
 口腔インプラント科 教授 井上 雅裕
 歯科麻酔学講座 准教授 百田 義弘
 以上 H. 25. 3. 31付

昇任・所属変更

歯科医学教育開発室 講師 益野 一哉
 H. 24. 10. 1付

再任用

高齢者歯科学講座 助教 田中 栄士
 H. 24. 10. 1付

大学院教員任用

大学院准教授 馬場 俊輔
 大学院講師 新井 是宣
 以上 H. 24. 12. 1付

職員採用

附属病院 看護師 堂免さとみ
 H. 24. 7. 1付
 附属病院 看護師 馬渡 佐知
 H. 24. 8. 1付
 教務学生課 課長 中山 勝美
 H. 24. 12. 17付

専門学校教員採用

歯科衛生士専門学校 助教員 濱本 愛子
 H. 24. 12. 1付

所属・職種変更

医事課 事務職員 吐山 寛
 H. 25. 1. 1付

兼務解除

教務学生課 課長 松村 誠一
 H. 25. 3. 31付

死亡退職

内部監査室 室長 安藤 孝幸
 H. 24. 8. 19付

定年退職

薬理学講座 教授 篠原 光子
 口腔治療学講座 教授 馬場 忠彦
 小児歯科学講座 教授 嘉藤 幹夫
 歯科矯正学講座 准教授 神原 敏之
 病院事務部 病院事務長 前野 隆
 教育情報センター事務室 室長 三木 慶一
 医事課材料室 室長 西嶋 耕治
 教務学生課 事務職員 斎藤 俊司
 医事課 事務職員 岡本 安子
 附属病院 歯科技工士 木村 洋三
 附属病院 歯科衛生士 下村 和子
 以上 H. 25. 3. 31付

依願退職

歯科衛生士専門学校 助手 岡田容梨子
 H. 24. 8. 31付
 歯周病学講座 助教 吉川 直子
 歯科麻酔学講座 助教 安東佳代子
 以上 H. 24. 9. 30付
 耳鼻咽喉科 嘱託医師 松本 考司
 H. 24. 11. 30付
 耳鼻咽喉科学講座 准教授 久保 伸夫
 医事課 事務職員 西村 謙
 以上 H. 24. 12. 31付
 附属病院 看護師 高来 美幸
 H. 25. 1. 31付
 口腔インプラント科 教授 井上 雅裕
 口腔衛生学講座 准教授 三宅 達郎
 歯周病学講座 准教授 高津 兆雄
 歯科麻酔学講座 准教授 百田 義弘
 数学教室 講師 野田 知宣
 生理学講座 助教 諏訪部 武
 歯科保存学講座 助教 鈴木康一郎
 有歯補綴咬合学講座 助教 土佐 淳一
 歯科矯正学講座 助教 永木恵美子
 附属病院 放射線技師 川島 伸介
 附属病院 看護師 安木のり子
 附属病院 看護師 林 江里子
 附属病院 歯科衛生士 二階堂真理子
 附属病院 歯科衛生士 橋本 明佳
 以上 H. 25. 3. 31付

任期満了退職

薬理学講座 助教 石塚 智子
 歯科矯正学講座 助教 永田 雄己
 以上 H. 25. 3. 31付

再雇用任期满后退職	放射線技師	櫻井 邦昭
附属病院	歯科技工士	佐藤 繁男
附属病院	歯科技工士	永井 利明
附属病院	事務職員	池田 良則
同窓会事務局	以上	H. 25. 3. 31付
委 嘱		
産業医		大久保 直 木田 博 以上 H. 24. 7. 1付
医療嘱託		馬場 一泰 H. 25. 1. 1付
耳鼻咽喉科		
学校法人大阪歯科大学		
省エネルギー推進委員会委員長		下村錢三郎
省エネルギー推進委員会委員	諏訪 文彦, 覚道 健治	
	小正 裕, 亀井 崇	
	牧谷 弘幸, 田中 修	以上 H. 24. 10. 25付
楠葉学舎衛生委員会委員長		川合進二郎
楠葉学舎衛生委員会委員	木田 博, 高須 聡	
	橋本世津子, 中井 円	以上 H. 24. 10. 25付
天満橋附属病院衛生委員会委員長		清水谷公成
天満橋附属病院衛生委員会委員	大久保 直, 東 真一郎	
	宇野 綾	以上 H. 24. 10. 25付
第四学年 助言教員		緒方智壽子 H. 24. 10. 1付
講師(非常勤)委嘱		
内科学講座		長野 豊 H. 24. 7. 1付
講座所屬外		
耳鼻咽喉科	北尻 雅則, 土井 直	
	朝子 幹也,	以上 H. 24. 10. 1付
	友田 幸一, 岩井 大	以上 H. 24. 11. 1付
大学院歯学研究科		
細菌学		多々見敏章 H. 24. 12. 1付
	井上 純一, 亀井 真紀	以上 H. 25. 3. 1付
歯科衛生士専門学校	緒方智壽子, 木村 大輔	以上 H. 24. 12. 1付

〇〇〇

あとがき

〇〇〇

学生生活には切り離せない<学食>。全国どこの大学でも必ずといっていいほど設けられていますが、わが国における初の学生食堂は、どこに作られたのでし

ようか？

答えは、福澤諭吉先生の私塾「慶應義塾」（慶應義塾大学）です。

慶應義塾大学のホームページには、慶應4年【慶應義塾】が芝新銀座の地に移転したときに、「塾生が生活を共にした寄宿舎の敷地内には食堂が備えられていた。これがおそらくわが国で初めての学生食堂であると言われていいる。」と記されています。

その中にある「食堂の規則」5箇条

第1条 食事の時刻は、日の長短に従て、時々布告す可し。

第2条 食事の時間は朝夕一洋時半づゝ、昼は一洋時を限る。此期に後るゝ者は食に就くを許さず。

第3条 銘々名前の席に就き、互に席を乱る可らず。食椅を汚す事あれば、其席主の責なり。

第4条 立て食事をする禁ず、腰掛台に乗て食事するを禁ず。

第5条 ドテラ、三尺帯等、不相当の衣服を着誌、食に就くを禁ず。

食事の時間制限があり、時間に遅れると食事は抜きとなり、食椅(=椅子)からの移動や立食の禁止、服装の制限などなど…。<学食>は、教育の場でもあり、マナーや服装に注意しているなど、この点は現代にも通じていると思いますが、いかがでしょうか？

新年度4月を目処に楠葉学舎と牧野学舎の<学食>がリニューアルされます。新しいメニューが徐々に準備されています。学生さんや教職員のみなさんのニーズには敏感に対応していこうとしていますので、一層のご利用をお願いします。ちなみに座席指定はありませんので、ご安心を。

大阪歯科大学広報 第167号

発行日 平成25年3月31日

編集発行 広報委員会

〒573-1121 枚方市楠葉花園町8-1

電話 072-864-3111